

# JID

## NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

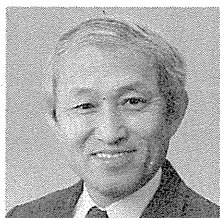
1996 10・11

### 国際デザインセンターのオープンと役割

(株)国際デザインセンター

専務取締役 木村 一男

11月15日、いよいよ「国際デザインセンター」が、名古屋の中心地・栄にオープンすることになりました。名古屋にデザイン活動の核となるデザインセンターをつくらうという構想が生まれてから、10年近い時が流れました。



その間、世界デザイン博、世界デザイン会議から昨年の世界インテリアデザイン会議 (IFI '95 Nagoya) まで数多くのデザイン・イベントが開かれ、「デザイン都市名古屋」としての基盤を着々とつくってきたといえるでしょう。

誕生する国際デザインセンターは、15階建のデザインセンタービルの地下1階から地上7階まで約16000㎡を占め、そこにデザインホール、ギャラリー、ライブラリー、各種セミナー室など、さまざまな設備を備えています。特に市民に開かれたセンターとして、「デザインとはなにか」を解説するデザインミュージアムが設けられているのが特長です。

ここを舞台に、研究開発、情報収集・発信、研修・啓蒙、国際交流などの事業が行われますが、株式会社であることを活かしたユニークな活動を展開したいと思って

### 「目次」

|                                           |    |
|-------------------------------------------|----|
| ●国際デザインセンターのオープンと役割                       | 1  |
| ●1996年「JID賞」を受賞して                         | 3  |
| ●国際家具デザインコンペ旭川'96の〈東京展〉と「デザインフォーラム」       | 4  |
| ●Gマーク40年の足跡と記念展                           | 5  |
| ●インターネットホームページ「JAPAN DESIGN」の開設           | 6  |
| ●JID受託事業/IFFT'96特別イベント「マイスタイルホームオフィス」について | 7  |
| ●IFI理事地域代表制/JID案                          | 8  |
| ●本部・教育研究委員会報告                             | 8  |
| ●IFI理事会ダブリン会議報告                           | 9  |
| ●「IFI news」抜粋'96年4号                       | 11 |
| ●デザイン業のプレ・ネットワーク                          | 11 |
| ●平成8年度・第2回理事会報告及び第3回理事会報告                 | 12 |
| ●中国インテリアデザインの過去と現在を訪ねる旅に参加して              | 17 |
| ●「アジア太平洋スペースデザイン会議'96 日本・福岡」に出席して         | 20 |
| ●書評「エコ・インテリア」                             | 21 |
| ●JID NEWS 関東                              | 22 |
| ●JID NEWS 中部                              | 24 |
| ●JID NEWS 関西                              | 26 |
| ●JID NEWS 九州                              | 28 |
| ●新入会員の紹介                                  | 30 |
| ●会員の異動                                    | 31 |

います。開館から来年3月までに、展覧会からショー、セミナー、ミニ国際会議まで約20の催しを行います。

これまでも中部デザイン団体協議会（JID 中部事業支部も参加）はじめ各デザイン団体と密接な連携をとりつつ、進んで参りました。

名古屋にはありますが、目は日本、そして世界に向けています。これからも変わらない力強いご支援とご指導をお願い申し上げます。

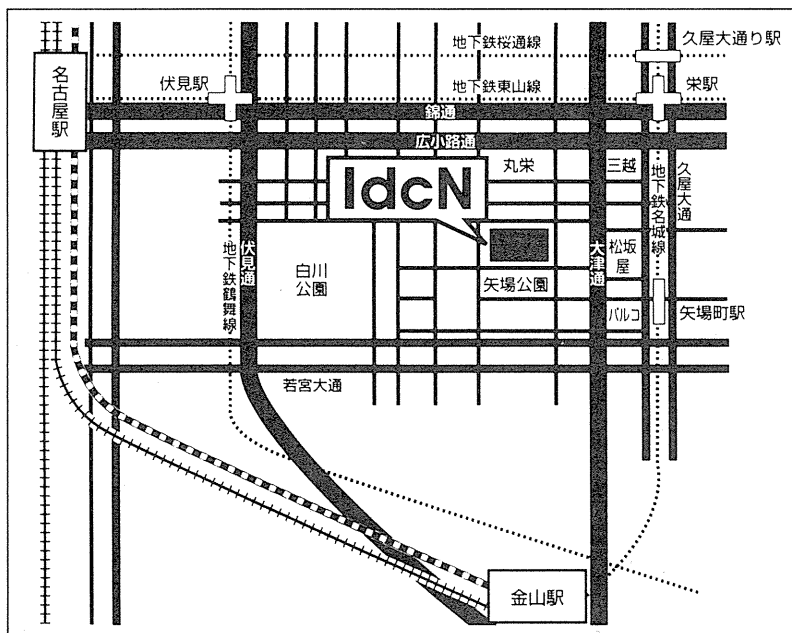
名古屋へお越しのときは、ぜひお立ち寄りください。お待ち申し上げております。



11月15日にオープンした「国際デザインセンター」



デザインセンタービル・アトリウム



「国際デザインセンター」案内図



シンボルマークとロゴ

株式会社 国際デザインセンター

名古屋市中区栄三丁目18番1号

デザインセンタービル

Tel.052 - 265 - 2100

地下鉄ご利用の場合

地下鉄東山線・名城線「栄駅」下車徒歩8分

地下鉄名城線「矢場町駅」下車徒歩5分

## 1996年「JID 賞」を受賞して

(株)藤江和子アトリエ 藤江 和子

最近の建築やデザインの分野において、「コラボレーション」ということが話題になり、語られていると言えます。

デザインという分野は、純粹美術に対し、ひとりの作家の個人的な世界だけで完結するものではないというのが原則にありますから、本来コラボレーションが原則にある訳ですが、最近この言葉が話題になっていることの背景を改めて考えてみると、社会全体が巨大化、複合化してきていること、また細分化してきていることにより、各分野間の境界というものに新しい意味が生まれてきたと考えることができます。境界とは、ある世界ともう一つの別の世界の境目を示し、二つの世界を別々に絶つ場所でもあり、同時に二つの世界をつなぐ場所でもあるわけです。ですから、この両儀性を持つ境界を越えて、コラボレーションを成立しようとするときには、それぞれの分野の立場において、以前より増して、自立した意識がより強く意志化され、実行されなければならない必要に迫られてきたのだと思うのです。

境界を越えようとするポジティブな意志の力も、距離をとり引いて身を置く意志も、同じように確立された意志の力を必要とし、境界を前に自らの断面をさらけ出すわけですから、中身の質が問われ曖昧にいることは許されません。

この度「JID 賞」を受賞した「パトリ+清里フォトアート・ミュージアム」では、建築家の栗生氏が建築技術者・インテリア家具・ランドスケープのデザイナーをはじめ、プロデューサー、クライアントをも交えた



コラボレーションを提唱されて進められ、大変いい結果が出ました。

この経験を通して言えることは、コラボレーションとは、確立された主体性を持つ者同志が、隣接するそれぞれの関係〈境界〉をしっかりと認識することから始まるのだということ、同時に専門家としての力量が厳しく問われることになるということが言えると思います。

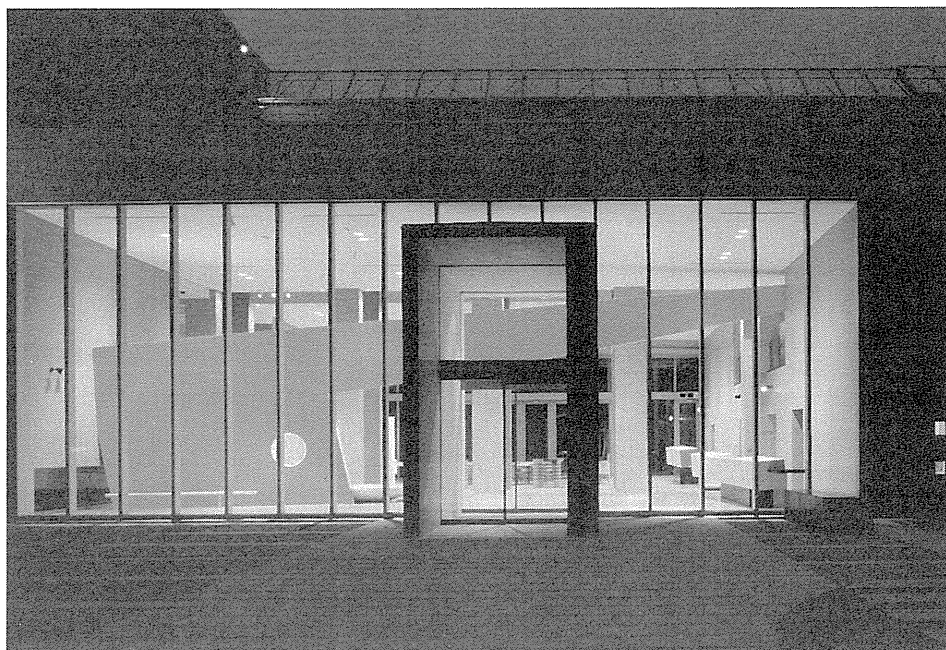
### ●審査評

清里の自然環境の中に立地した、本格的な写真芸術専門の美術館（宿泊施設併設）である。近年、しばしば建築とインテリアを対比的に考える一方、元来、建築空間と室内空間は表裏一体で融合したものであるとする伝統的思考もある。しかし、いずれの概念にしろ、建築の完成度の高さはその内部空間の充実によって昇華される。その点で当該作品は、建築設計と家具デザインの大胆なコラボレーションによる成功例といえよう。

それは「ロビー空間」に顕著に見ることができる。ややビビットに彩られたアヴァンギャルドな造形家具と建築空間とが、互いに触発しつつ、それぞれのデザインポキャボラリーとしての形・素材・色彩を見事にシンクロナイズさせ、第三の空間ともいえる質の高いインテリア空間を創出している。

「建築空間と家具」、古くて新しい命題に対し、ユニークな発想で、インテリアスペースに新境地を結実させたデザインは高い評価ができればよい。

(選考委員長／長岡 貞夫)



「JID 賞」/インテリアスペース部門「パトリ+清里フォトアート・ミュージアム」

## 1996年「JID 賞」を受賞して

日経 BP 社

「日経デザイン」編集長 森山 明子

「インテリア研究・著作・業績部門」で'96年のJID賞に選ばれたとの報を、ただただ驚きの気持ちで受け取らせていただきました。創刊から10年目を数える弊誌は、著作ではありますが研究的な色彩は薄く、デザイン誌ではありますが、クリエイションの先端を追うというよりはデザインマネジメントを編集の核とし、さらには書店販売ではなく、定期購読に限定する売り方を採ってきたからです。その購読者もデザイナーを想定したのでは必ずしもなく、事実半数に近い読者は経営・企画・開発・広報・宣伝に関与するマネージャー層です。カバーする情報の範囲にしても、インテリアが中心というわけではないことは明かです。ですから、この部門でこれまで受賞されてきた輝かしい対象とは、およそ性格を異にすることが驚きの数々の理由でした。

こうした雑誌にいただいた、「デザイン界はもとより、多くの関係者に少なからず影響を与えてきた」という選考委員会のお言葉を、'97年7月で10周年を迎える弊誌の



次のステップを考える上での励みといたします。それが、'95年に世界インテリアデザイン会議を成功させた貴協会の会員の方々が抱く展望と重なる部分があることを願いながら、編集・広告・販売に関わってきた創刊以来の数十人を代表して、この賞をいただくことに対する感謝の言葉とします。

### ●審査評

情報化時代、各種メディアの果たす役割がますます重要性を増しつつある。しかし、その中でデザイン出版界は、その脆弱な市場基盤のためか、時の経済状況に大きく左右され、栄枯盛衰を繰り返してきた変化の激しい業界ともいえよう。

このような厳しい出版環境にあって、この10年の間、わが国唯一の「デザインの総合誌」として、広がりのあるデザインフィールドを多面的に捕らえ、デザインを取り巻く状況を巨視的に透視し、鋭い分析と問題提起などと共に、その多様な情報を的確に伝えた同誌は、デザイン界はもとより、多くの関係者にも少なからず影響を与えてきたといえる。選考委員会は、このような同誌の長年のデザインジャーナリズムとしての活動と業績を高く評価した。

今後も、引き続きデザインのオピニオンリーダーとして、グローバルな視点からタイムリーで魅力ある情報の発進を期待したい。

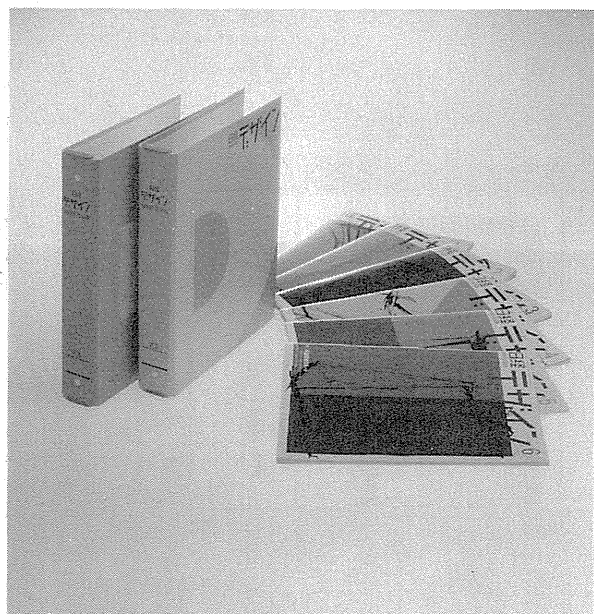
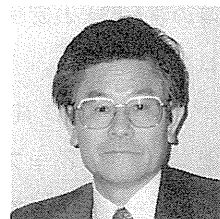
(選考委員長／長岡 貞夫)

## 国際家具デザインコンペ旭川'96の 〈東京展〉と「デザインフォーラム」

D.D.S 代表 山口 尚忠

国際家具デザインコンペ旭川'96の入賞入選作品〈東京展〉が10月17日から29日まで、OZONEで開催され5千人を上回る来場者があった〈JID後援〉。

同コンペは“木製家具”をテーマとしたデザインコンペとして唯一のものであり、世界的にも高い評価を得ており、応募点数も1回目の'90年は18か国・470点、'93年は35か国・993点、そして3回目の今回は44か



「JID 賞」/ インテリア研究・著作・業績部門  
「日経デザイン」：日経 BP 社



国・1353点と回を重ねる毎に大幅に増加している。

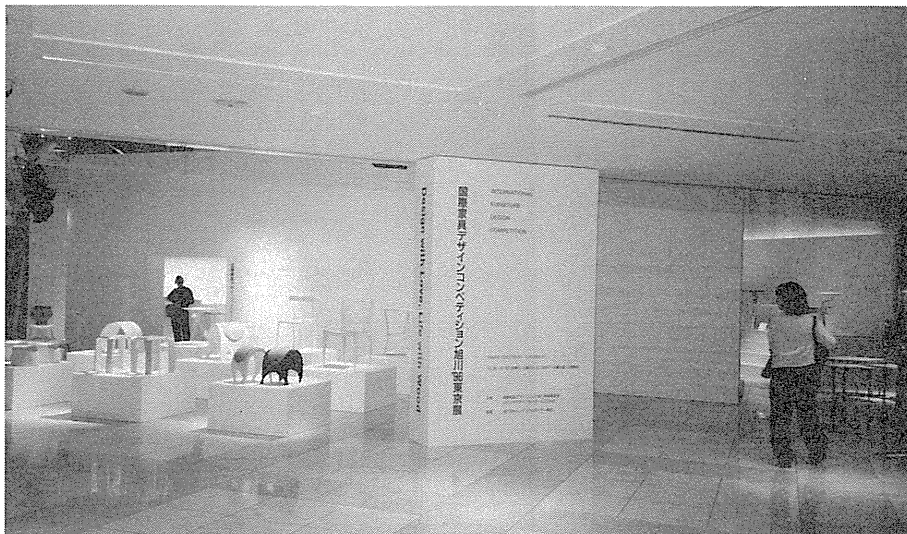
ご承知のようにこのコンペは、わが国の代表的な高級家具産地として知られている“旭川”が行っているものであり、今年7月に旭川で入賞入選作品展が開かれた。この世界規模でレベルの高い作品が多い作品を、より多くの人々に見てもらおうと、(株)リビングデザインセンターの全面的な協力を得て、〈東京展〉として開催されたものである。

今回の入賞作品は、審査員の1人である喜多俊之氏がコメントの中で述べているように「エコロジーや資源の問題意識に立って、これからの木工家具を考えた作品など、未来へのメッセージがこめられた作品が数多くあった」のが大きな特徴で、“単純・軽量・省資源”が共通のコンセプトとなっていたといえる。

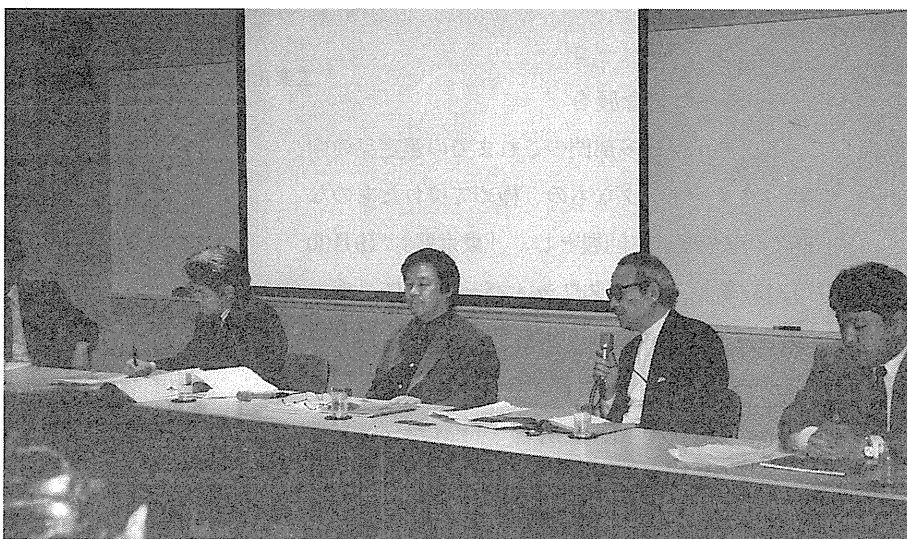
期間中の25日には、審査員の宮脇 壇、喜多俊之、入賞者の蛸名紀之、今崎 務の4氏をゲストに

“家具デザイン、21世紀への課題”をテーマとしたデザインフォーラムが開催された。〈東京展〉およびデザインフォーラムを企画・プロデュースした私が司会を担当、同コンペの特徴や入賞作品の傾向や評価などについて、後半は家具デザインの現状と問題点や今後のあり方などについて、参加者の意見も交えて有意義な提言が行われた。

注：文中の喜多俊之、蛸名紀之、今崎 務の3氏はJID会員



国際家具デザインコンペ旭川'96入賞入選作品「東京展」  
新宿パークタワー・3F・OZONE プラザ



「デザインフォーラム」パネリスト右より蛸名紀之・今崎 務・喜多俊之・宮脇 壇

このマークは、昭和32年に通産省がグッドデザイン商品の選定制度をスタートさせ、優れたデザインと機能性、品質、安全性などにも配慮されている商品を選定することから始まり、その後、家具・繊維・住宅設備部門を加え、昭和55年には「グッドデザイン大賞」を設定、平成6年には施設部門を新設し、現在は14部門と、その選定領域をひろげ今年で40年目となった。

この間に選定された商品は22,275点、選定社数は6,602社を数え、わが国の産業の振興と国民生活の質的向上に果たした役割は大きい。

振り返ってみると、輸出振興が旗印だった1950年代は、「デザイン盗用」を戒め、創作活動を奨励し、独創性の高い商品を求めた。そして、1960年代の高度成長による大型消費時代、1970年代の居住環境や余暇開発への関心と、オイルショック後の多様化時代を経て、省エネ、小

## Gマーク40年の足跡と記念展

理事／事務局長 森谷 延周

シンボルマークの代表作の1つに、グッドデザインを表わす「Gマーク」がある。(デザイン／亀倉雄策)

型化、システム化などが叫ばれ始めた産業の知識集約化の1980年代へと向かった。いま1990年代は、コンピュータ化の波が押し寄せ、高度情報化社会が身近なものとなる一方、環境や経済問題などと共に、デザインの役割も問われている。

このような変遷の中で、通産省から選定事業の業務委託を受けている(財)日本産業デザイン振興会では、このほど、Gマーク40年を記念して「時代を創ったグッド・デザイン」

— Gマーク40年スーパーコレクションと題した記念展を

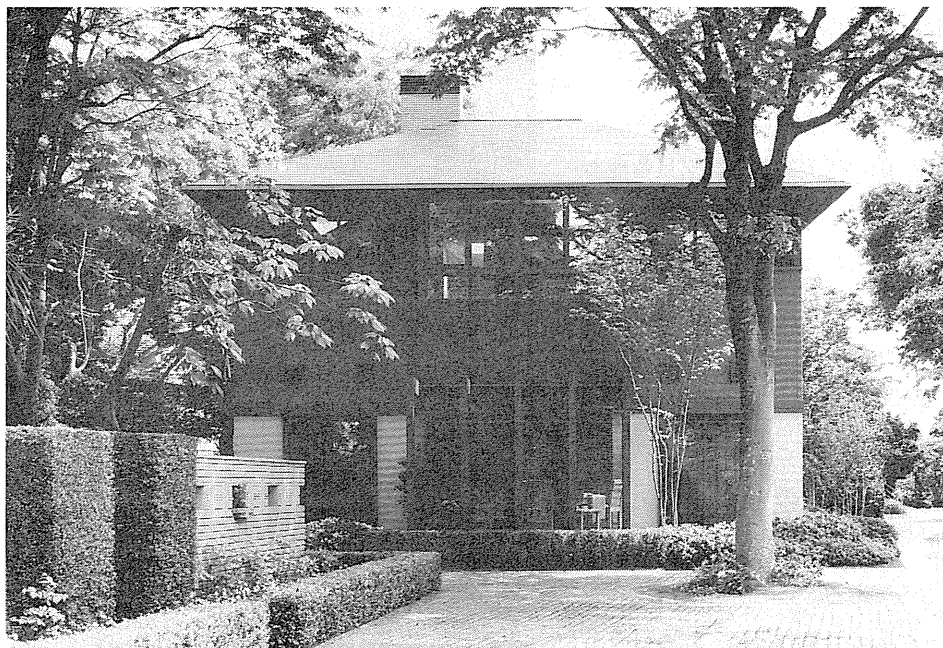
開催している。展示品は多部門のこれまでの選定品の中から、エポックメイキングなもの、極めて優れたものなど、約500点。記念展は巡回展とし、「東京展」(9月30日～10月13日/新宿パークタワー・パークタワーホール)を皮切りに、「名古屋展」(11月15日～11月27日/国際デザインセンター・デザインホール)「大阪展」(12月6日～12月15日/ATC ITM 棟・ITM ホール)を開催中。デザインに関わる立場から、歴史の再確認として見る事ができた。

## インターネットホームページ 『JAPAN DESIGN』の開設

本部・総務委員会委員長 秋山 修治

昨秋、皆様のお手元に、(財)日本産業デザイン振興会・デザイン人材開発センターから、パソコン通信『ニフティサーブ』上に『インター・デザイン・ネットワーク』フォーラム開設といった案内が同封されたと思います。この内容は、掲示板、電子会議、データライブラリーの3部門から成り立つもので、「>GOIDNF」は、そのロゴマークでした。

そしてその後、このニフティサーブから、インターネットへと進化させ、【デザインのインフラストラクチャー】の確立をめざすとした計画を立て、JIDを含



平成8年度グッド・デザイン大賞  
工業化住宅/GENIUS 蔵のある家 ミサワホーム(株)

む「デザイン8団体」へ参加を呼びかけています。

これは、同振興会がサーバー(大型コンピュータ)を持ち運営するというもので、(社)日本グラフィックデザイナー協会の協力を得て、すでに一部開設されています。

この『JAPAN DESIGN』の特徴は、同振興会の活動インフォメーション(デザイン関連イベント、Gマーク、デザイナーの作品展示)のほかに、『WHO'S WHO』というコーナーを開き、デザイン8団体のマスターページのほかに、8団体に所属するメンバー個人と4点までの作品の紹介を行うというものです。また、すでにホームページを開設している人については、そこから、個人のホームページへ、リンクするようにデザインされるとのことです。

今後の動きとしては、デザイン8団体の全面的な参加と、各団体の会員の賛同を得て順次整備されていきますが、当協会は、本部・総務委員会が中心になり『WHO'S WHO』に協力することになりました。

参加をご希望会員には、個人情報入力に必要な経費の応分の負担(完全原稿で1～2万の範囲とのこと)を必要としますが、細部が決まり次第、皆さまにご案内いたしますので、興味のある方の参加を期待します。

なお、現在下記のアドレスにより、インターネットホームページ『JAPAN DESIGN』を見ることが出来ます。インターネットに接続されている方は、是非ご覧ください。

インターネットホームページ

『JAPAN DESIGN』のアドレス

<http://www.jidpo.or.jp/japandesign/>

## JID 受託事業/IFFT'96特別イベント

### 「マイスタイルホームオフィス」

(一見ミスマッチ、だけど便利で心地いい  
マイコンピューティングオフィス) について

本部・事業委員会委員長 木村戦太郎

開催名/’96 東京国際家具見本市

会 期/11月27日(水)～30日(土)

場 所/東京国際展示場(東京ビックサイト)

主 催/(社)国際家具産業振興会

この JID NEWS が届く頃 IFFT'96は終了しているのですが、原稿を書いている今10月末は、11月24～26日の施工とそれに続くオープニングに向けて実行委員一同スケジュール表を横目に精一杯、汗をかいている最中です。

イベントをご覧にならなかった方に概要をお知らせするため、パンフレットの文章を引用しておきます。

「コンピューターによる高度情報化社会は、私達を押し流そうとするかのようです。それは、オフィスでのワークスタイルや人間関係、コミュニケーションの在り方に変革を迫り、家庭のライフスタイルにも影響し始めています。そのことに反発や疎外感を感じる人も多く、オフィスではテクノストレスによる生産性の低下も指摘されています。しかし、一方でそれは、障害を取り除いて選択肢を広げ、自分なりの自由な生き方も可能にしてくれるのです。

今回のイベントでは、このコンピューターとホームファニチャーの接点であるホームオフィスに焦点をあて、コンピューターを始めとするデジタル機器を生活空間にどう取り込み、便利で心地いいワークスペースをいかに実現するかをテーマとしています。ここでは、具体的に4つのライフステージを設定し、仕事や家事や育児などの様々なシーンでの、それぞれ

の、コンピューティングライフを提案しています。

家具のセッティングでは、必ずしも機能にはこだわらず、家庭としての温もりや手触りを大切に、木質系を中心にコーディネートしました。あなたの「マイスタイル」のヒントになれば幸いです。

今回のイベントは、事業委員会がスタートして JID 最初の受託事業で、時間が無かったこともあり、私が企画書を作成しプロデュースも担当、実行委員は色々な方に相談して指名しました。当初は、考え方や行動パターンの異なるメンバーとのチームプレイに難しさを感じましたが、最初に主張をぶつけ合う場が持てたことで、なんとか乗切れそうで、初めての人達とのコラボレーションは、私にとっても貴重な体験となっています。

今回私は、事業委員長という立場もあり

①協会ボランティア ②提案のクオリティ

③協会 PR

この3点を重視して活動していますが、実行委員の負担も少なくありません。

受託事業にどう関わり、どう対応するかは今後プロジェクトを担当する企画委員や実行委員の考え方により色々あるかと思います。協会としてのコンセンサスを形成するためには、時間と経験と議論が必要なようです。

## IFFT'96 企画・実行メンバー

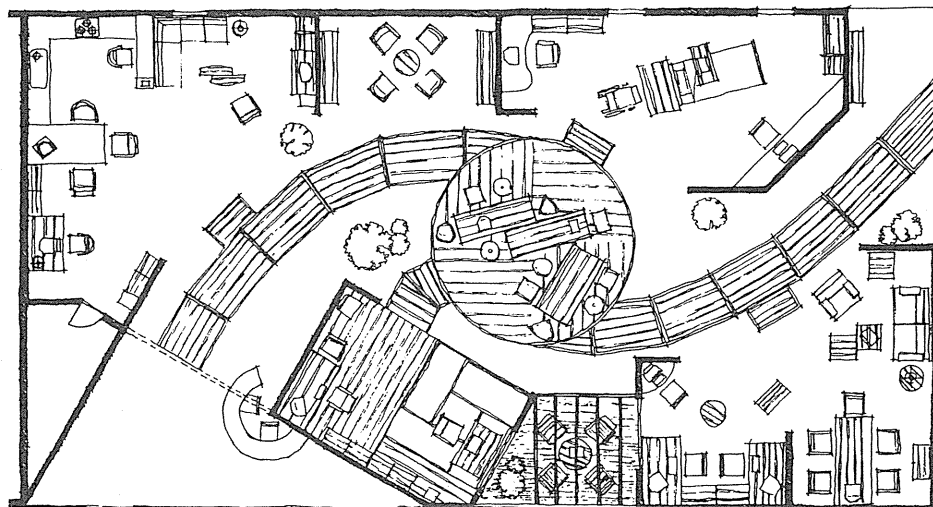
企画・プロデュースー木村戦太郎：本部・事業委員長

実行委員ー日方 和城：本部・事業委員

ー鎌田 博子：本部・交流委員

ー鳥井 貴正：デジタル研究会

ー荒居 康明：デジタル研究会



「マイスタイルホームオフィス」会場平面図/作図・鎌田博子

## IFI 理事地域代表制/JID 案

本部・国際委員会担当理事 浅野 盛治

現在の IFI 理事の選出方法は、たとえば世界区による選挙です。IFI の理事を務めている JID の中川副理事長はこの制度で選出されましたが、その後の IFI では、地域ごとに理事を選出する案を検討しています。

1995 年名古屋での IFI 総会において、インド(IDA)、タイ(TIDA)、台湾(SCID)、フィリピン(PIID)の 4 ヶ国が正式に加盟し、アジアパシフィック地域は、今までのインドネシア(HDII)、オーストラリア(DIA)、韓国(KOSID)、日本(JID)、香港(IDA)、マレーシア(MSID)を加えて 10 ヶ国となりました。

IFI はその成立から今日まで、加盟国及び理事は、ヨーロッパなどの西洋圏に片寄った構成になっています。今度、加盟国が 6 ヶ国から 10 ヶ国に増えたことから理事の定員、選出方法などを IFI として検討することになっていて、JID として素案の作成を依頼されていました。

本部・国際委員会では、アジアパシフィック地域の加盟団体にアンケートを送って意見の取りまとめを行い、去る 9 月 25 日開催の JID 理事会の承認を得て、10 月 17 日～20 日のアイルランドで開催された IFI 理事会に、次の内容の提案を中川 IFI 理事より行いました。

1. **理事の定数**／加盟国数を考慮して 2 人。
2. **地域区分**／地理的な要素によって、2 地域にする。
3. **選出方法**／新規加盟が多いことから互選。
4. **経費**／理事所属協会が 50%、残りを分割負担。

同時に次期理事国として、加盟歴の古い順を考慮してインドネシア・韓国を推薦しました。

これらの提案は、IFI 理事会において基本的な理解が得られ、今後は、細部にわたり、さらに検討することとなっています。

本部・国際委員会としては、今後共、加盟 10 ヶ国の意見の取りまとめを行い、中川 IFI 理事を通して IFI に働きかけを行っていきます。

## 本部・教育研究委員会報告

本部・教育研究委員会委員長 村口 峡子

新年度も半年過ぎました。委員会では皆様や我々にとってどんな有意義な活動が出来るのか、月 1 回のペースで会議を重ねてきましたが、これまでの経過を報告いたします。

### ●「健康住宅セミナー」(9月28日)

東洋プライウッド(名古屋)、ルーミットホーム実験棟にて。本部から青木 猛会員が出席しました。中部事業支部会員の熱心な研究、現場での説明は、会の今後の活動に対し刺激やヒントを受けてきました。

### ●「健康に負担をかけない材料」BLパウダー社の見学会(10月1日)

委員会を兼ねた見学会を行い、皆で、体を動かして壁塗りの実験もしてまいりました。会を重ねるにつれ、今期のキーワードとなっている「健康」「やさしい」は、何と奥が深く、恐ろしいことと感じております。会員の皆様のお考えや情報を頂けると、委員一同、大変ありがたい昨今です。(本部事務局 FAX 03-5322-6559 本部・教育研究委員会宛までご連絡下さい。)

また、紙面を借りて、中部、関西、九州各事業支部の皆様のご協力にお礼を申し上げます。



「健康住宅セミナー」名古屋・東洋プライウッド(株)にて





珪藻土の壁塗りを体験／BLパウダー社にて

## IFI 理事会ダブリン会議報告

IFI 理事 中川 帛子

IFI '97 ダブリン総会及び国際会議の開催を1年後に控え、去る10月17日～20日、その会場となるダブリン市でIFI理事会が開催された。主催国の総会準備状況や会議構成の中間報告を受け、会場となる二つの市の視察が今回の理事会の主たる目的であった。

アイルランドは長い過酷なイギリスの支配を経て1949年に正式に共和国となった。ビールのギネス、アイリッシュウイスキーそして言葉の国、J・ジョイスやオスカーワイルドを生んだ国でもある。EU加盟国になってからの経済発展は順調で、生野菜からコンピューターのチップスに至るまで日本にも輸出しているとか。そうした経済力の裏付けが、人口400万ほどの国にIFI総会開催を可能にしたようである。

次回のIFI総会は、現在、国際会議場に使われているダブリン城で、また国際会議は、ダブリンから200キロ離れたアイルランドの保養地、カラーニー市のホテルでの開催が予定されている。観光と保養の町カラーニーは周辺に森や湖を配した言わば日本の箱根と言ったところか。

観光案内所を兼ねた市庁舎は、カラフルな小商店の並ぶ町並みの端にあって、ひときわ目立つグリーンとピン

クの建物だった。IFIメンバーと市長を尋ねここで懇談した。市に連なるカラーニー国立公園は広大で、山に囲まれた湖畔のゴルフ場は息を呑むような美しい景観の中にある。会議の前後にプレー可能の由。

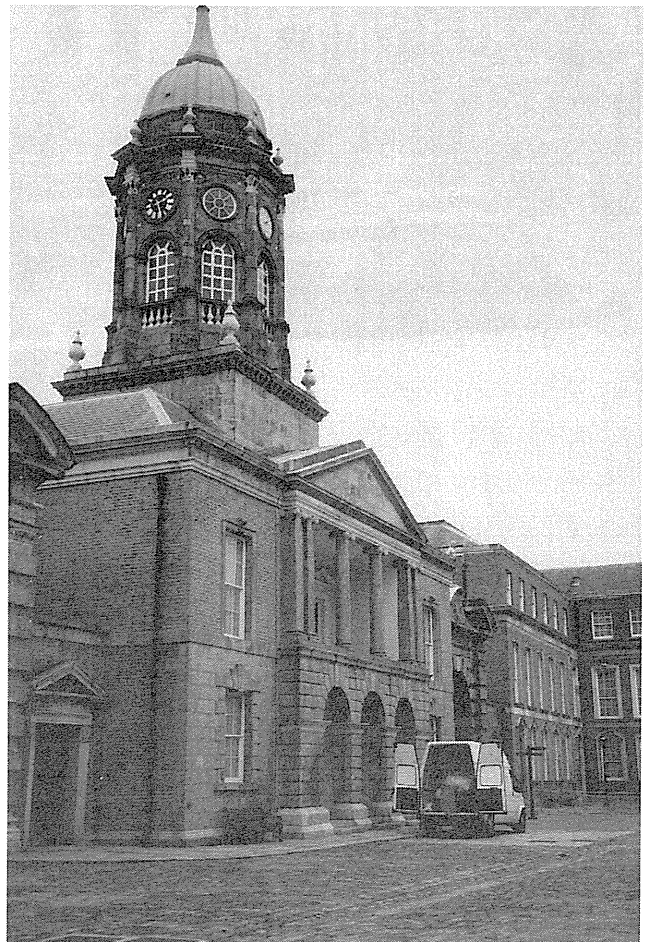
IFI '97のテーマは“SENSE OF SPACE”、会議の基調講演者やセッションのテーマ及びパネラーの一部が下記のように発表された。

開会基調講演者：JHON MONTAGUE (アイルランドの詩人)

その他基調講演者：BEN KELLY (英)、MICHELE DE LUCCHI (伊)、CHARLES CORREA (インド) ETC.

セッションは環境問題、デザイン教育の未来環境の構築、仕事の環境における人間的な要求、人のための場、空間とは等々をテーマに行われる。また、JIDの長岡貞夫前理事長がパネラーの1人に指名されている。8年振りのヨーロッパでの開催で、IFI加盟の全団体の参加が見込まれており、特に前開催国日本からの多数の参加を要請された。

今回取りためたダブリンとカラーニーのスナップ写真をJID本部事務局に置くので、ついでの折りに申込書パンフレットと併せてご覧頂きたい。



IFI '97 総会に予定されているダブリン城中庭



IFI'97 総会に予定されている  
ダブリン城近くの町並み



IFI'97 国際会議に予定されている  
カラニー市のメインストリート

IFI'97 国際会議に予定されている  
ホテルのダイニングルーム



## 著作権

### ●IFI デザイン保護フォーラム〔記録文書〕

'95年10月オランダにおけるインターオフィスのイベントでの演説、参加者の質問に加え、知的所有権としてのインテリアデザイン保護についての姿勢文書が掲載されている。IFI フォーラム文書は、'96年9月 IFI メンバーに配布される予定。個人的に文書を希望の方は、郵便為替で郵送費、手数料の Hfl 30.00 (オランダギルダ) で申し込んでください。

## イベント情報

### ●北京国際インテリア・デコレーション・ショー'96〔北京〕

12月12～16日 中国、北京のチャイナ・インターナショナル・エキジビション・センターにて開催。FAX: +8610-8396422

### ●国際高齢化のためのフォーラム〔シンガポール〕

'97年1月20～26日 シンガポール、インターナショナル・コンベンション・センターにて開催。Fax: +65-225-1337

## 予 告 / 1

### '97 NEW YEAR'S PARTY

例年行われている NEW YEAR'S PARTY は、1996 年「JID 賞」表彰式と併せて、下記の予定で開催されます。

また、ご好評の「賛助会員インフォメーション」は、関東・組織委員会の手によって、継続です。同封のご案内をご覧ください。

なお、標記のパーティーは次回から、本部事業とし、本部・総務委員会を中心に、関東・交流委員会の協力を得て行うことになりました。ぜひ、ご予定ください。詳細は後日ご案内いたします。

●日時／平成 9 年 1 月 21 日 (火) 夜

●場所／東京・新宿パークタワー 8F

クラブスクエア・グリーンズカフェ

(本部・総務委員会)

### ●IFI Member - SDSA〔南アフリカ〕

『未来のオフィス』、『すべてのためのデザイン』についての IFI フォーラムが、'97年2月14～19日の日程で開かれる。情報、出版物をご希望の方は、Fax: 27-11-646-6165 まで。

## 書籍案内

### ●Journal of Interior Design

IFI のアソシエイトである IDEC による Journal of Interior Design Vol.21 No.2 が出版された。内容は衛生施設における吸・遮音デザインの特色、女性医療センターの評価、ホワイトハウスにおける家内技術、インテリアデザインの体験プログラム、出版物批評、CD-Rom 特集などである。

Fax: +1-312-467-0779

## デザイン業のプレ・ネットワーク

去る9月26日、デザイン8団体(日本デザイン団体協議会)による事務局長会議が開催された折、(財)日本産業デザイン振興会より、デザイン事業所のプレ・ネットワークづくりに向けた提案があった。

その狙いは、従来の個人事業指向から、「デザイン業」といった産業化を指向しようとするもの。

つまり、デザインの文化的・経済的活動を認識しつつ、デザインの市場開拓、経済環境の改善を図るためのビジョンづくりといっよい。

具体的には、デザイン8団体が推薦したメンバー(約20事業所)により、月1回の研究会を実施、本年度(平成9年3月末)中に、一つのまとめを目指す。

推薦への時間が切迫していたため、正副理事長、本部・総務委員長・事務局長により検討した結果、JID から下記のメンバーを推薦した。また人選にあたっては、原則として法人格を有している、デザインのためのビジネスを行っている、複数のスタッフ(5～6人)をかかえていることを基本条件とした。

●海老沢 宏、坂本和正(関東事業支部)

●千田要宗(関西事業支部) 以上3名

なお研究会のリード役は、(財)日本産業デザイン振興会・デザイン人材開発センター。

(事務局長／森谷 延周)

## 【 平成 8 年度・第 2 回理事会報告 】

①会議名：平成 8 年度・第 2 回理事会

②日 時：平成 8 年 7 月 23 日（火）13：40～17：00

③場 所：(株)日本インテリアデザイナー協会

本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数 15 名中（本人出席 11 名）

（理事長）泉 修二

（副理事長）中川 帛子

（理 事）浅野盛治、今崎 務、岩倉榮利

吉良ヒロノブ、関 里繪子、

中川千年、中川千早、夏原晃子、

森谷延周（事務局長）

（委任状）浅田弘之、長岡貞夫、福田友美、

山口道夫

（監 事）金子誠之助、川上信二

### ⑤議 題

#### I. 議 案

第 1 号議案 後援・協賛名義承認の件

第 2 号議案 会員入退会承認の件

第 3 号議案 議事録署名人選任の件

#### II. 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

(2) 平成 8 年度収支状況報告（6 月末現在）

(3) 関東通産局関係報告書提出について

(4) JIDA デザインキャンプ in 信州新町'96に参加して

(5) 平成 8 年度第 1 回合同会議について

(6) JID の出版物の資産扱いに関して

(7) その他

### ⑥議 事

森谷事務局長より「理事総数 15 名中、本人出席 11 名、委任状 4 名で本理事会は成立した」旨報告。引続き、泉理事長が議長となり議事に入った。

#### I. 議 案

第 1 号議案 後援・協賛名義承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は、下記 8 件について説明した。討議の結果、暮らしのなかの AKARI 展・推進協議会からの依頼については、後援・協賛に関する細則に照らし、見合わせることにした。

議長は、7 件に関して承認を諮り、異議なく承認され

た。

◎「G マークデザインコレクション」

後援・新

1996 年 9 月 30 日（月）～12 月 15 日（日）

主催 (財)日本産業デザイン振興会

◎「国際漆デザイン展'96・石川」

後援・継

公募開始 1996 年 1 月

展示 10 月 9 日（水）～13 日（日）

主催 国際漆デザイン展・石川開催委員会

◎「華胥の夢博'96」

後援・継

1996 年 10 月 16 日（水）～10 月 20 日（日）

主催 (株)大川総合インテリア産業振興センター

◎「'97 GERRN DESIGNING IN YAMAGATA」

協賛・継

1996 年 7 月～1997 年 3 月 31 日（月）

主催 山形グリーンデザイン実行委員会

◎「KOBE インターホーム'96」

協賛・新

1996 年 9 月 4 日（水）～9 月 7 日（木）

主催 (財)神戸国際交流協会／日刊工業新聞社

◎「国際家具デザインコンペティション旭川'96東京展」

後援・新

1996 年 10 月 17 日（木）～10 月 29 日（火）

主催 リビングデザインセンター OZONE

◎「ポルトガルヤングデザイナーズ展」

後援・継

1996 年 10 月 10 日（木）～10 月 16 日（水）

主催 ポルトガル投資・観光・貿易振興庁

◎第 1 回「暮らしのなかの AKARI」展

後援・新

1996 年 10 月 31 日（木）～11 月 5 日（火）

主催 暮らしのなかの AKARI 展・推進協議会

第 2 号議案 会員入退会承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は下記 11 件について説明した。

議長は、承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

入会 正会員（4 件）

| 氏 名     | 支部 | 保 証 推 薦 人   |
|---------|----|-------------|
| 山 下 よその | 九州 | 鐘ヶ江茂則・山永 耕平 |
| 宇津崎 光 代 | 関西 | 三輪 正弘・喜多 俊之 |
| 小 野 和 徳 | 九州 | 中川 千年・伊東 邦隆 |
| 嶋 本 喜 司 | 関東 | 小田原 健・森谷 延周 |

退会 正会員（3件）

| 氏 名     | 支部 |
|---------|----|
| 中善寺 多加敏 | 関東 |
| 末 永 真佐子 | 関東 |
| 寺 島 千枝子 | 関東 |

入会 賛助会員（2件）

| 社 名                                     | 支部 | 紹介者            |
|-----------------------------------------|----|----------------|
| 柏木工株式会社                                 | 中部 | 佐戸川 清<br>岩倉 榮利 |
| 積水化学工業株式会社<br>ルーミング事業部<br>セキスイルーミングカレッジ | 関西 | 小宮 容一          |

退会 賛助会員（2件）

| 社 名                              | 支部       |
|----------------------------------|----------|
| 才門建設株式会社 モン・パシオ事業部<br>株式会社 沼崎製作所 | 関西<br>関西 |

第3号議案 議事録署名人選任の件（2名）

議長は、岩倉榮利、吉良ヒロノブ両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

議長は、各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、JIDAデザインキャンプについては理事長、本部事務局については事務局長に活動に関する報告を求め、それぞれが資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

●関東事業支部（吉良）

去る6月19日、意思の疎通を図るため「本部・関東委員長合同会議」を開催したこと、及び恒例の「デザイン供養」は、今後、本部・交流委員会にすべて移行することとした旨報告。なお、自主活動の「デジタル研究会」からの要請に関して、その組織的位置付けは、本部・総務委員会の中で検討することとした。

●中部事業支部（関）

6月20日以降、「インターネット勉強会」を3回開催し（各回出席約10名）会員の関心を高めることに役立ったこと、及び中部全体会議の討議内容、並びに支部情報紙「NOW」の発行計画について報告。

●関西事業支部（夏原）

6月7日～7月19日間の委員会活動（ECHO編集、JID俱樂部など）を中心に、関連団体との交流状況、及び8月3～4日実施予定の「四国生活文化巡りの旅」について報告。

●九州事業支部（中川千年）

FUKUOKA デザインリーグ'96（デザイン団体集合によるイベント）、第2回九州デザインコンペティション（テーマ/バリアフリーデザイン）、アジア太平洋スペースデザイン会議'96日本・福岡（テーマ/コミュニケーション&アミューズメント）など、今秋に目白押しの関連イベントについて触れ、まもなく内容が明確となる旨報告。

●選考委員会（長岡）

長岡理事（選考委員長）委任出席のため、事務局長が代理報告。

1996年「JID賞」の第1次審査（6月10日締切、応募点数53点）の概要、及び表彰式の時期を今後は新春交礼会（東京）に併せて行うこととした旨報告。

●総務委員会（浅田）

浅田担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

委員会人事の調整、事業計画の立案のほか、JIDPO、JAGDA主導のホームページ「ジャパンデザイン」に、8団体合同開設案があり、来る7月29日に検討委員会が予定されている旨報告。

●組織委員会（中川・帛）

「会員拡充」に関して、「IFI'95名古屋」参加者へのアプローチ、および懸案の名誉会員制度については、アンケート結果を踏まえて、9月または11月の理事会までに、委員会としての結論を出す旨報告。

●国際委員会（浅野）

海外情報の整理と会員への伝え方を検討していること、及びIFI理事の「地域代表制」に関して、



アジア地域(10団体)各国の意見をアンケートにより打診中と報告。続いて、中川(帛)理事よりIFI理事会(7月3～6日/コペンハーゲン)及び北欧5ヶ国会議(6月28～29日/スウェーデン・ヨーテボリ)について報告。前者は「IFIアイルランド'97」の準備状況や地域代表制、アジアの動向を中心とし、後者は表敬訪問と5ヶ国会議の運営方法と内容など。

●交流委員会(岩倉)

明年の「デザイン供養」は「夢みなと博」に併せて7月26日(土)開催されることが決定した。一方、「夢みなと博」の受託事業としての可能性を考えたいこと、及びこれからの事業として、アジアとの交流イベントも視野に入りたいと報告。

●広報委員会(山口)

山口担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

国内広報先リストの整備に関して、重複チェック、及び各支部委員に追加リスト提出の要請を検討している旨報告。

●事業委員会(福田)

福田担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

前委員会の提案書を基にしながら、基本理念の構築や受託事業の実践的対応を模索していること、及び(株)国際家具産業振興会委託の「IFFT'96」特設ブース(ホームオフィスの提案)展示計画進行状況を報告。

●教育・研究委員会(中川千早)

7月10日の全国会議開催状況を中心に、「JID登録研究」の奨励、及び会員間の研究に関する交換交流やセミナーの企画・実施計画について報告。

●デザイン保護委員会(今崎)

今年度はデザイン8団体との共同に限らず、JID内部における討議や勉強会など、わかりやすさを基本に絞り込んだ事業を行いたい旨報告。

(2) 平成8年度収支状況報告

4月1日～6月30日現在の収支状況を資料に基づいて報告。新年度から間もないこともあり、余り大きな動きは見られない旨報告。

なお、6月末日現在の権利停止者は、正会員35名、

賛助会員3社と報告。

(3) 関東通産局関係報告書提出について

去る6月26日、例年通り、所定の報告書を関東通産局サービス産業課に提出した旨報告。

(4) JIDA デザインキャンプin信州新町'96に参加して

JID代表として参加の泉理事長より報告。

開催初日の7月20日、「ラウンドテーブル」と題して、日本のデザインのこれからを展望しながら、デザイン団体の連携や活動のあり方について論議した。出席者はJIDPO、JIDA、JAGDA、SDAなどから9氏。

(5) 平成8年度第1回合同会議について

去る7月17日本部事務局にて、4支部長、本部各委員会委員長、正副理事長、事務局長計15人による合同会議を開催した。会議では、今年度の基本方針、運営組織と役割分担、各事業計画など、資料により多面的に討議し、相互に確認した。

(6) JIDの出版物の資産扱いに関して

現状のJID出版物に関して、事業上の性格、資産計上、会計処理などについて、資料により討議した。その結果、資産計上とせず、これまで通りの頒布扱いとすることとした。

(7) その他

・人事異動

乾 敏一 新：大臣官房付

旧：産業政策局サービス産業課長

宮崎修二 新：産業政策局サービス産業課長

旧：在シンガポール・アジア太平洋  
経済協力(APEC)事務局

・訃報 奥宮 守(名誉会員)

平成8年6月14日逝去 享年84才

坂本康四(名誉理事)

平成8年6月18日逝去 享年76才

梶 高樹(名誉会員)

平成8年7月13日逝去 享年75才

佐藤耕二(賛助会員/三井デザインテック  
(株)取締役会長)

平成8年6月10日逝去 享年62才

藤原治一郎(元通産省検査デザイン課長)

平成8年7月7日逝去 享年47才

・次回理事会開催予定('96第3回)

平成8年9月25日(水)

## 平成 8 年度・第 3 回理事会報告

①会議名：平成 8 年度・第 3 回理事会

②日 時：平成 8 年 9 月 25 日（水）13：40～17：40

③場 所：(社)日本インテリアデザイナー協会

本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数 15 名中（本人出席 14 名）

（理事長）泉 修二

（副理事長）浅田弘之、中川帛子

（理 事）浅野盛治、今崎 務、岩倉榮利

吉良ヒロノブ、関 里繪子、

中川千年、長岡貞夫、夏原晃子、

福田友美、山口道夫、

森谷延周（事務局長）

（委任状）中川千早

（監 事）金子誠之助、川上信二

### ⑤議 題

#### I. 議 案

第 1 号議案 IFI 理事地域代表制 JID (案) 承認の件

第 2 号議案 派遣人事承認の件

第 3 号議案 後援・協賛名義承認の件

第 4 号議案 会員入退会承認の件

第 5 号議案 議事録署名人選任の件

#### II. 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

(2) 平成 8 年度収支状況報告（8 月末現在）

(3) 「商業施設士」の資格取得について

(4) G マーク選定制度 40 年展について

(5) その他

### ⑥議 事

森谷事務局長より「理事総数 15 名中、本人出席 14 名、委任状 1 名で本理事会は成立した」旨報告。引続き、泉理事長が議長となり議事に入った。

#### I. 議 案

第 1 号議案 IFI 理事地域代表制 JID (案) 承認の件

議長は、浅野担当理事に説明を求め、浅野理事は資料に基づき、理事の定数 2 名、地域区分は地理的区分に、選出方法は互選、経費は理事所属協会が 50 %、残りを他協会で分割負担とする JID (案) を説明した。

議長は、承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

### 第 2 号議案 派遣人事承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は、資料に基づき、下記について説明した。

1. 「アジア太平洋スペースデザイン会議'96 日本・福岡」派遣人事

李 泰久（本部・国際委員会委員長）

2. 「IFI アジアパシフィック地域代表者会議」派遣人事  
中川帛子（副理事長、IFI 理事）

李 泰久（本部・国際委員会委員長）

討議の結果、前者については、九州事業支部より追加 1 名を加え、その人事を理事長・事務局長に一任した。

議長は、承認を諮り、異議なく承認された。

### 第 3 号議案 後援・協賛名義承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は、下記 7 件について説明した。

議長は、7 件に関して承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「第 7 回国際デザインキャンプ'96 松本」 協賛・継  
1996 年 10 月 16 日（水）

主催 第 7 回国際デザインキャンプ'96 松本実行委員会

◎「'96 東京国際家具見本市」 後援・継  
1996 年 11 月 27 日（水）～30 日（土）

主催 (社)国際家具産業振興会

◎「JAPANTECH '97」 協賛・継  
1997 年 2 月 5 日（水）～8 日（土）

主催 (社)日本インテリアファブリックス協会

◎「創立 30 周年記念 SDA フォーラム」 後援・新  
1996 年 10 月 28 日（月）

主催 (社)日本サインデザイン協会

◎「国際デザインシンポジウム」 後援・新  
1996 年 10 月 4 日（金）

主催 (財)日本産業デザイン振興会

◎「総合シンポジウム「高齢社会における共生住環境」 協賛・新  
1996 年 11 月 18 日（月）

主催 (社)日本照明委員会

◎日本インテリア学会第 8 回大会 後援・新  
1996 年 10 月 26 日（土）～27 日（日）

主催 日本インテリア学会

#### 第4号議案 会員入退会承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は下記13件について説明した。

議長は、承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

入会 正会員（4件）

| 氏 名     | 支部 | 保 証 推 薦 人   |
|---------|----|-------------|
| 李 在 赫   | 関東 | 李 泰久・浅野 盛治  |
| 渡 部 式 部 | 中部 | 宇賀 敏夫・安藤 清  |
| 唐 来 弘 光 | 関東 | 小田原 健・森谷 延周 |
| 佐 藤 勝 己 | 関東 | 松本 哲夫・関口 正巳 |

退会 正会員（8件）

退会 名誉会員（1件）

| 氏 名     | 支部 |
|---------|----|
| 永 島 幹樹子 | 関東 |
| 佐々木 浩   | 関東 |
| 伊 藤 基 恭 | 関東 |
| 斉 藤 義 男 | 中部 |
| 中 川 富 美 | 関西 |
| 酒 井 博 幸 | 九州 |
| 村 田 良 憲 | 九州 |
| 舟 越 信 雄 | 関東 |

| 氏 名     | 支部 |
|---------|----|
| 井 関 黎 一 | 関西 |

#### 第5号議案 議事録署名人選任の件（2名）

議長は、関 里繪子、中川千年両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

#### II 報告事項

議長は、各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、本部事務局については事務局長に活動に関する報告を求め、それぞれが資料を基に報告した。

##### (1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

###### ●関東事業支部（吉良）

出版・組織・総務などの委員会活動状況のほか、セミナー第1回「デザイン職人四方山話」（参加者約40名）を実施したこと、及びデジタル研究会の活動主旨に触れながら、本部・総務委員会より理事会に対して、改めて再提示したいとした。

###### ●中部事業支部（関）

好評の「インターネット講習会」の開催計画（第6回9月19日～第10回1月16日）や機関誌

「NOW」の11月発行予定、及び11月1日開催の第6回3・SHOWデザインフォーラム'96「名古屋 文化 再生」の共催計画などについて報告。

###### ●関西事業支部（夏原）

去る8月7日開催の「第1回賛助会員委員会」の開催状況、9月13日～22日実施の中国インテリアデザインの過去と現在を訪ねる旅（団長・樋口 治名誉会員／参加者18名）及び展覧会「百人百灯」計画（12月20日～25日）などについて報告。なお、国際デザイン展'97（明年10月ATCにて開催）のデザイン団体参加展示に関しては、不明点もあり、次回理事会にて再討議することとした。

###### ●九州事業支部（中川千年）

「FUKUOKA デザインリーグ'96」「'96九州インテリアデザイン展」などの準備状況、及び「アジア太平洋スペースデザイン会議'96日本・福岡」などへ参加対応などについて報告。

###### ●選考委員会（長岡）

1996年「JID賞」の審査結果報告を行ったが、一部の理事より「大賞」の見直し、応募作品の確保などについての意見があった。なお、委員長よりJID顕彰・表彰制度創設の草案が示されたが、討議の結果、さらに検討を重ね、次回理事会にて再検討することとした。

###### ●総務委員会（浅田）

浅田担当理事に代わって事務局長が代理報告。

(財)日本産業デザイン振興会・(社)日本グラフィックデザイナー協会より提案のインターネット「ジャパンデザイン」開設に関して、デザイン8団体に協力要請があり、これまでの経過と現状を説明、JIDとしても歩調を合わせる方向を確認した。今後の煮詰めは、JID内部の動向を睨みながら、本部・総務委員会が担当することとした。

###### ●組織委員会（中川帛子）

会員拡充、会員規定などを検討中。平成8年度の会員拡充計画は、目標に達していないので、各理事の一層の協力を求めたいとした。

###### ●国際委員会（浅野）

「アジア太平洋スペースデザイン会議'96日本・福岡」へのJID会員の参加促進に努めていること、及び「IFI理事地域代表制」に関するアン

ケートの実施状況を報告。

●交流委員会（岩倉）

明年7月開催の「山陰・夢みなと博覧会」淀江町ブース（淀江町のPR）に関して、企画書及び模型（案）を提出した旨報告。

●広報委員会（山口）

特に大きな進展はない。次回理事会に、JIDのホームページに関する提案を行いたいとした。

●事業委員会（福田）

「IFFT '96 特別イベント」「フィリッピン・セブ島家具事情視察・交流ツアー」「インテリアコーディネートブック」の企画編集などについての進行状況、及び受託事業に関する活動理念・ルールの草案を示した。討議の結果、内容の重要性から、事業委員会を中心に検討を続行することとした。

●教育・研究委員会（中川千早）

中川千早担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

「ユニバーサルデザイン」に関する調査資料の収集を行い、今後の活動に役立てたいと報告。

●デザイン保護委員会（今崎）

デザインの著作権をどうするかが主テーマであり、そのためには会員同士の討議や1960年以降の歴史的経過を確認し、今後の方向付けを考えたいとした。

●「インテリアコーディネートブック」執筆委嘱について

JID 創立30周年記念事業「シルバー社会のインテリア研究」を発端に、(社)インテリア産業協会より同ブック「優しい空間」（仮題）の執筆依頼があり、内部調整の結果、舟橋千枝会員を委員長とし、以下8人のJID会員に対して、イン産協より直接委嘱することになった旨、事務局長が報告。

(2) 平成8年度収支状況報告（8月末現在）

4月1日～8月31日現在の収支状況を資料に基づいて報告。全予算に対して、収入27%支出30%で若干の支出オーバーとなっている。

なお、8月末日現在の権利停止者は、正会員26名、賛助会員2社と報告。

(3) 「商業施設士」の資格取得について

認定審査・証明事業を行っている(社)商業施設技術団体連合会より、平成8年度「商業施設士」の資格取得試験に対して、受験者増強の要請が届いている旨資料に基づいて報告。

(4) Gマーク選定制度40年展について

昭和32年より通産省が行っているGマーク選定制度は、今年で40年を迎えた。時代を創ったグッドデザイン—Gマークスーパーコレクションと題して、東京（9月30日～10月13日）名古屋（11月15日～27日）大阪（12月6日～15日）の順に、巡回展が行われる旨報告。

(5) その他

- ・中間監査（予定）10月25日（金）
- ・次回理事会開催予定（'96第4回）  
平成8年11月26日（火）

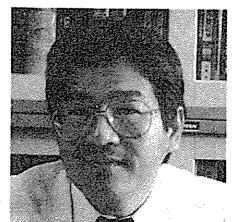
中国インテリアデザインの過去と  
現在を訪ねる旅に参加して

'96年9月13日～9月22日

「移り行く中国の街の中で」

関西事業支部会員 加藤 力

樋口 治（JID 名誉理事）  
団長のもと、北京中央工芸美術学院、上海同济大学など、中国インテリア界との交流目的で訪中した。



丁度12年前、小原二郎先生（千葉大学名誉教授）と共に同じ目的で、ほぼ同じ地を訪ねたことがあった。この間、中国は天安門事件の禍があり、自由化の波が押し寄せ、特に都会の表情は大きく変わった。

例えば、街は相変わらずの自転車の渦の中にはあるが、高級外車を含めて自動車であふれ大渋滞、クラクションの音がけたたましく響く。かつて、朝モヤの中でゆったりと動く太極拳の姿が消え、代わって竹の子族顔負けの中年女性達のホコ天踊りが巾をかかず。夜の街にはネオンが輝き、マクドナルドを頬ばる若者達でにぎわう。人民服などはとうに消え去り、ミニスカート、薄化粧、ピアスをつけた若い女性達が目にまぶしい。

古い建物が次々と取壊されて、上海では今100本の超高層ビルが建設中という熱気である。

アメリカにも似た都市景観の中で、しかし人々の行動様式や精神の働きにも変化がうかがえる。いささかげんなりする商売気や経済観念の強さにそれらが現れている。

奥行の深い広大無辺の中国のほんの一瞬をかすめただけの短い旅であって、ほんとうのところは何も解らない。だが、街の移り行く様には一種、驚きがある反面、いささかの失望もある。

活力、自由、進歩、近代化、期待あるいは欲望、貧富、矛盾等々全てをのみ込んで中国は今、大きな変貌の時節にある。

だが、同じ専門分野を持つ1人ひとりと接触すればたちどころに、真摯、謙虚、控目でありながら熱心、向学を目指した礼節な人々の姿が浮かびあがる。

異なった国の社会や文化を本当に理解するとは、こうした所から始まるのだと、つくづく感じた。



上海の都市景観

## 中国インテリアデザインの過去と現在を訪ねる旅に参加して

'96年9月13日～9月22日

### 「中国一瞥記」

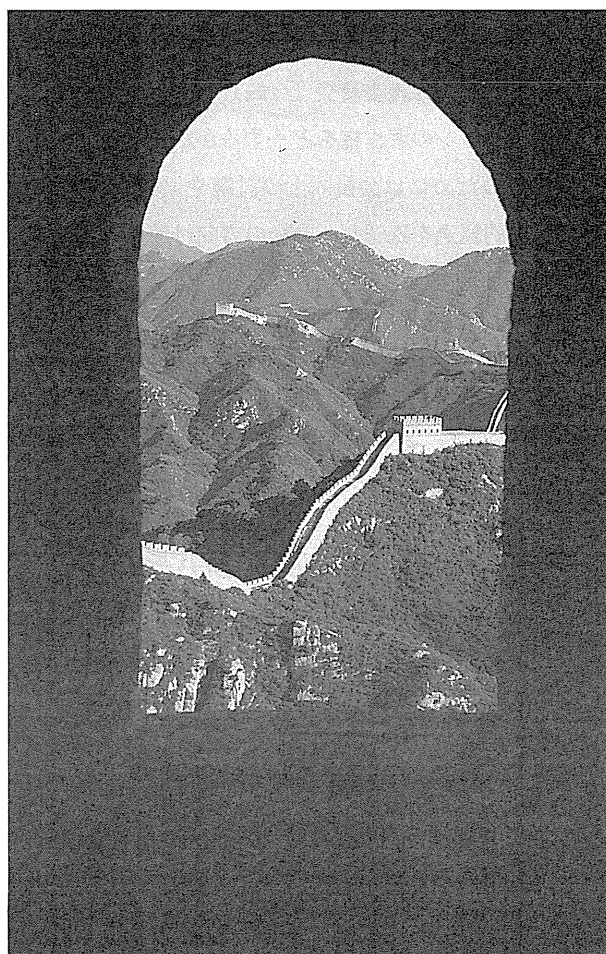
関東事業支部会員 松本 研一

まずは、今回の旅を企画・引率して下さいました団長の樋口

治さんはじめご尽力頂いた方々、さらに私たち（若干3名：名前は言えません）の自由

奔放な行動を温かく見守って頂いた同志（？）の皆様に心から感謝申し上げます。この報告を“書きなさい”というご要請を断れなかった理由は、ご迷惑をお掛けしたお一人、副団長の小宮容一さんの要請であるとお聞きしたことに依ります。拙文の言い訳を前置きに、個人的な感想を記すことで報告といたします。

さて、10日間に亘り中国で見聞してきたものと言えば、実はカメラのファインダーのみでした。そこで、撮



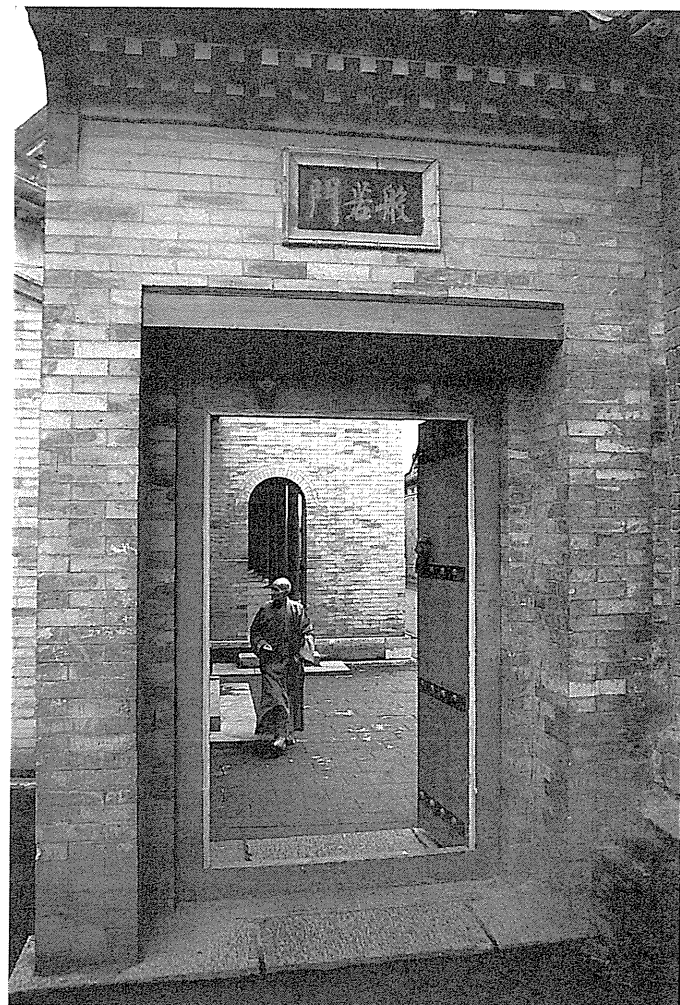
万里の長城の烽火台



りまくったスライドを眺めて気付いたことは、中国は“覗き見”る国であるということでした。

万里の長城の烽火台（P.18）においては敵を“覗き見”る、また、大雁塔（P.19：般若門）においては坊主が世界の究極的真理を“覗き見”る、さらに香山ホテル（P.19）では中国のヴァナキュラーなデザインを用いることで、過去の歴史をも“覗き見”るというように。時代の違いを超えて息づく“覗き見”る行為の形象化とその形態の豊さは、私の持っていた“覗き見”るということに対する矮小化した捉え方をも瓦解させ、新たな解釈を迫ります。“覗き見”る行為の形象化への限りのない追求は、インテリア空間の質を演出する重要なエレメントであると再認識しました。図らずも、私がカメラのファインダー越しに“覗き見”してきた中国の光景が、逆に私の“覗き見”るという矮小化した解釈を“覗き見”られた思いすら感じています。

未だ中国の“覗き見”る世界に足を踏み入れてない御仁は一度いかがでしょうか。自らの心の底を見られたくない御仁は遠慮なさることをお勧めしますが。



大雁塔（般若門）



香山ホテル

## 「アジア太平洋スペースデザイン会議'96日本・福岡」

—— 総会に出席して ——

本部・国際委員会委員長 李 泰久

今回の APSDA (アジア太平洋スペースデザイナー協会) の会議は、11月7日(木)～9日(土) 同会議・福岡実行委員会により、最近大変活気のある福岡市(日航ホテル)で開催された。海外からは KOSID (韓国)、CSID (台湾)、HDII (インドネシア) MSID (マレーシア)、PIID (フィリピン) の6協会が参加したが、地理的な理由もあって韓国からは48名、台湾からは31名という大代表団が目立った。

事前の準備不足もあって前回の準備会議、総会直前の臨時調整会議、総会、総会終了後の懸案処理のための緊急会議という具合に、多少混乱を伴って変則的なものとなった感が否めない。

争点は主に規約改正に絡むもので、時間的に規約文書そのものの承認まで至らず、今回はそれぞれの条項について趣旨の確認の合意に留まり、JCD が今後2カ月以内に文案をまとめ各協会に諮るということになった。

**主な内容は、**①政治色の払拭を明文化する。②加入団体の職能資格の重視を盛り込む。③現加盟協会の団体名称は守られる。④現加盟協会と同一国から新会員の加盟希望があった場合は、当該現協会の事前承認を必要とする。⑤議決方法を明確化する。⑥友好会員の条項を新たに設ける。(例：IFI 又は学会など) 香港返還を控え、中国からの参

加希望などを背景として、創立メンバーである CSID (台湾) がかなり神経質になっている点が注目された。

次期開催国については、マレーシアとインドネシアの2協会が立候補し、それぞれ誘致のためのプレゼンテーションが行われた。調整を試みたが不調に終わり、最終的に選挙の結果、MSID (マレーシア) が'98年にクアラルンプールで開催することに決定し、MSID は2カ月以内に大会の概要をまとめ、各協会に送付することになった。



アジア太平洋スペースデザイン会議 '96 日本・福岡/総会



出席した APSDA 加盟7ヶ国代表・左端は泉理事長

## 「アジア太平洋スペースデザイン会議'96日本・福岡」

—— 会議に出席して ——

本部・国際委員会委員 佐藤 栄次

今回初めてこの会議に参加したわけですが、やはり参加することに意義があると言えますか、参加してみなければ味わえないことが、沢山あったように思います。

2日目の「パネルディスカッション」で、アジア各国のデザイナー達の生の声が聞けたこともその1つです。どんなに西洋かぶれしていても、日本人はアジアの一員であるということを改めて実感しました。

そしてお国柄は違っても、どの国のデザイナーも、スペースデザインを考える上で、自国の文化や歴史をバックグラウンドに、独自の価値感を模索しているということ。経済成長が目覚ましいアジア各国においても、もはや、“合理性”という言葉は死語であり、そこに見られたキーワードは、“文化”であり“歴史”であり“自然”でした。このことは21世紀を目にした今、我々が次の世代へと残すべきものとして、見直すことが急がれている各国共通のテーマなのでしょう。そしてその中で、人や自然がどのようなコミュニケーションを行うことができるのか。そのバランス感覚が21世紀のスペースデザインには求められてくるのだらうと感じました。

次回の「アジア太平洋スペースデザイン会議」は1998年にマレーシアで行われます。ぜひ、実際に足を運んでみられることをお勧めします。

### 予 告 / 2

#### 年末・年始の休業

本年も残り1ヶ月となりました。年末・年始の休業は、以下の通りとさせていただきます。

平成8年12月28日(土)～

平成9年1月5日(日)

何かとご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

(本部事務局)

## 書評「エコ・インテリア」

Grazyna Pilatowicz 著

清水忠男・清水純子共訳

関東事業支部会員 木村 戦太郎

環境問題に無頓着な人は少ないと思うが、行動しているかと問われれば、下を向いてしまう人が殆どだろう。私などもプロダクトデザインに関わる者として、欧米の先進企業のエコロジカルな製品に触れると、自分のささやかな努力に限界と無力さを感じてしまうことが多い。

企業は損を覚悟では動けないし、デザイナーが努力してもミラクルデザインは希であろう。やはりこの問題は、個人や企業が個別の努力で越えられる限界を遥かに越えているのであり、だとすればそのことを関連諸団体や企業、ユーザーなどと認識を広く共有し、全体として少しづつ前進するしか道は無いと思い至るべきだろう。

本書は、インテリアデザイナーによって書かれたエコロジカルインテリアのガイドブックである。

序論で専門家としての社会的責任や倫理に焦点をあて、第Ⅰ部「環境論」では、インテリアデザイナーの業務の地球規模および室内環境への影響について述べている。第Ⅱ部「インテリアデザインのプロセス」では、家具や設備や材料の指定の際に配慮すべき点を説き、第Ⅲ部「事例研究」では、リゾートホテル、オフィスなどの成功事例を紹介している。コンパクトなボリュームのなかに、重要な情報を包括的かつ実務に即したかたちで提供しており、理解しやすく携帯にも便利である。

欧米に比べ立遅れていると言われる日本の現状を動かすためにも、JIDのメンバーはもとより、関連企業や学生やユーザーにも広く読んで欲しい入門書と言えよう。

●丸善(株)発行 定価1,854円/156頁



## 関東事業支部の動き

関東事業支部長 阪井 良種

この度、「インテリアデザイン」誌が、各支部情報をまとめた形式にリ・ニューアルし、新たに発行されることになりました。

今後は、他支部の皆様全員にも、関東支部の活動をタイムリーにお知らせし、また各支部からの情報を受け、支部間をクロスオーバーした、以前にも増した協会活動が図れることと期待しております。

関東事業支部は広いエリア、多数で多様な所属会員、本部事業との住み分けなどを考慮しながら、各委員会の献身的活動により活発な事業展開を進めてまいりました。現在も幾つかの企画が進行しており、他支部の皆様にも今後とも関東の事業に是非、参加・協力をお願いいたします。

### 現在企画中の主な事業

- 東京を離れた地域で、東京エリアの会員と地元の会員や団体とのセミナー・交流会を開催する。広い関東エリアの会員をより密接にし、組織拡充のプロモーションも図る。

他支部にも出向き支部間の交流の機会とする。

- 海外研修ツアー（来年度実施予定）、関連事前セミナーを開催する。
- 新春交礼会と同時開催の「賛助会員インフォメーション」のコーナーを拡充し、今年度は全国の賛助会員に呼びかけ、ビジネスチャンスを拡大する。
- 実施事業の記録・保存化の模索。

協会として事業の記録、記録の保存・利用については本部のシステム構築を待つが、関東として実験的に主な事業をビデオ撮影・編集を実施中。

- 対外広報活動を充実する。

## シリーズ「デザイン職人四方山話」について

関東事業支部 広報委員会 鳥井 貴正

関東事業支部の動きの中で最近最も話題になっているのは、交流委員会（栗原満直委員長）が主催している「デザイン職人四方山話」です。

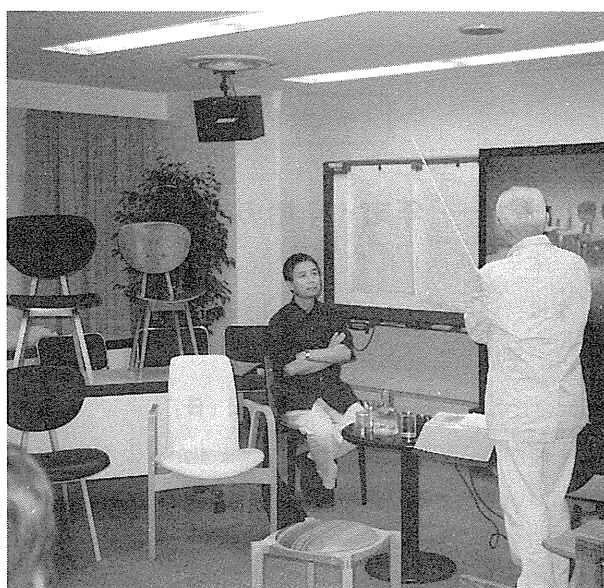
この企画は以前から交流委員会が暖めてきたものですが、いよいよJIDも40周年を再来年に控えていることもあり今年からの実施となりました。

広報委員会としましても内容の記録、保存あるいは出版関係への連絡などと、共催という形で教育・研究委員会共々側面からの支援をいたしております。

さて内容に関してですが、日本の激動の歴史である第二次世界大戦、経済の復興、高度成長と余りにも大きな流れの中で、経済活動の一環としての「デザイン」を諸先輩たちは、どう考え、どう動かしてきたのか。

貴重な体験談や失敗談、逸話などを取り混ぜて頂きながら、具体的に製品や作品、図面、図版などを使ってお話し頂きます。

何よりも貴重なのは、私達が本や雑誌などでしか知ることの出来ない歴史的製品や作品の制作秘話などを、当のご本人から本音の話として聞けるということでしょう。



長 大作さんより、原寸図面の苦労話を伺う





アメリカ軍の携帯用食器を説明する白石勝彦さん

第1回目は、長 大作名誉会員に出演をお願いし、柏木 博氏のコーディネートで開催いたしました。

氏の坂倉準建築研究所時代からの椅子の作品を20脚近く並べ、原寸図面やビデオを使ってデザインの苦労話や楽しい話をご説明頂きました。

柏木氏の絶妙な合の手により、口下手と謙遜された長さんも、時とともに話に熱が入り次から次へと、ひとつ一つの作品の思い出を、思い入れを込めて話されました。特に「自分は絵があまり得意ではなかったから全部模型を作って考えたんだよ」と言うような本音の話は、長さんの人柄を表わしているようでとても素敵な話でした。

第2回目は、白石勝彦会員の出演で、「室内」副編集長の岡田紘史氏にコーディネートして頂きました。交流委員長の挨拶によれば、お二人には、事前の打ち合わせは絶対にしないようにと、釘を差してあるとのこと。何の話が飛び出すのか興味津々という感じで、楽しく話は始まりました。

学生時代の話から進駐軍でのアルバイト時代の話に入りアメリカ軍が使っていた携帯用の食器の話がとても印象に残りました。

その話は、その食器の素晴らしいシステム性に感心し、それに触れたことがその後の氏の人生に大きな変化をもたらしたとのくだりなのですが、実際にその現物がテーブルの上に登場し、氏自ら使い方を説明された辺りは、今回最大の見所でした。

前回からビデオでの記録を撮っていて本当に良かったとつくづく思いました。

同時にデザインとは何なのかを改めて教えて頂いたような素晴らしい一時でした。

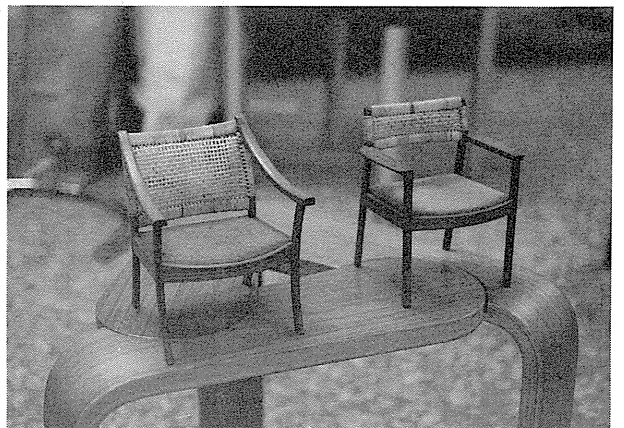
詳しい内容は、次の機会に委ねるとしても当企画を全国の会員の方々にも、ぜひご覧頂けたらと感じました。今後拠点を移しての開催も検討中とのことですので、ご期待下さい。

第3回目は渡辺 力名誉会員とのことで、今度はどんな話が飛び出すかととても楽しみです。

そして是非この企画を長く続けると同時に、記録の扱い方をじっくり検討して行きたいものです。



熱心に聞き入る参加者の方々、手前はテキスタイルの作品



白石勝彦さんのデザインによる「トモエスツール」と、その上に置かれた模型達



## 「NEW FACE 紹介」 欧州での経験を生かして

交流部会交流委員 渡部 まさみ

名古屋に来て、まだ2年の新人です。それ以前は、スイスでテキスタイルの勉強をしていました。現在は椅子張地の専門会社で、ファブリックスのデザイン開発を行っています。目下のところ、毎年1月ドイツで開催される、「ハイムテキスタイル国際見本市」に出展する商品づくりに追われています。当社は、同見本市に5年連続出展、私が、担当して3度目になります。

世界の壁はまだ厚く、望むような成果には結びつきませんが、常に広く世界に目を向ける姿勢と、自らの研鑽の場として、そこでの商品づくりに励んでいます。6年間の欧州での経験が、自らにどれほどの力を貯えたのか、日々の仕事にどのように、それらを反映させてゆくのか、少しずつでも表現できることを望んでいます。

## 北陸部会のスタートライン

北陸部会部会長 坂田 守正

北陸は稲刈りも終り、田畑や生活様式が冬の様相に変わります。

中部事業支部から遠距離に位置する北陸部会は、今、会員同士のネットワークや連絡体系などを模索中です。北陸部会とは、福井、石川、富山の三県を指しますが、日本海に面し、それぞれの風土性や習慣が異なり、おもしろい潜在価値があります。

特に“食”は、ことのほか美味しく、伝統文化は奥深く、表層では探求できない固有文化の価値があります。

また、近畿・中部・関東を太平洋側の底辺として結べば、北陸は、その三角の頂点というトライアングルの形になります。20世紀に表日本が「西洋文化の開花」したのであれば、北陸はとりわけ、「日本文化の開花」していく土地柄でもあります。

すでにボーダレス化した現代にあって、この鉄のトライアングルに見える軸線は、地域性を超え情報ネットワークされていくことになるでしょう。

今日、政治も経済も産業も新しい時代を迎え、デザイナーの責務は本質を問われ始めています。

デザインという語彙も、日本文化の中に再構築の時代を迎え、新たなスタートラインについたように思われます。



第1回 JID セミナー 新空調システム住宅の説明を熱心に聞入る参加者

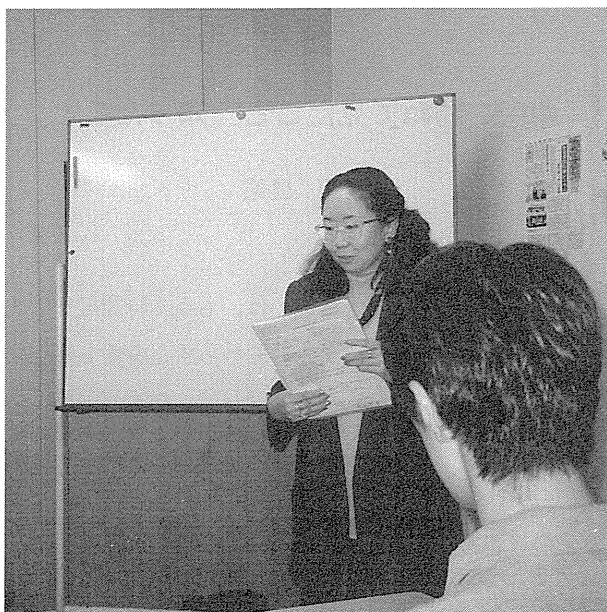
## 「健康」をキーワードに 第1回 JID 中部事業支部セミナー

事業部会副部長 星田 博子

教育研究と交流部会合同で「健康」をキーワードに第1回セミナーを、9月28日に開催しました。新空調システムを用いた、東洋プライウッド(株) ルーミットホームにおいて『ノンホルマリン合板の取組み』と『新空調システムの説明と体感』を行い、JID会員12名・会員外18名の参加で、その後「交流会」を催しました。

多くの方の、ご協力と参加により活発な、会合になり感謝しております。昨今、住宅内でも様々な健康障害やアトピーを含め、いろいろな事例が起っています。

セミナーは、今後も継続して開催予定ですが、「健康」に関わる幅広いジャンルの方のセミナーを企画し、皆様方のご参加をお願いしたいと共に、交流を深めたいと考えております。



第1回JIDセミナーにて、開催の挨拶をする星田博子さん(9月28日)

## 最近の私の動き

3台目のパソコン導入でインターネット時代を思う…

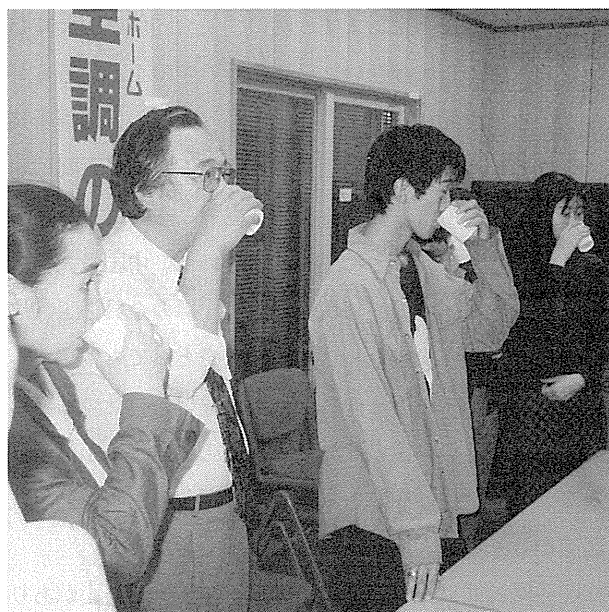
事業部会副部長 池田 慎司

最近、私のオフィスに3台目のパソコンがやってきました。新しいパソコンの導入には、二つの目的がありました。一つ目は、どうしても使いたいソフトがあり、今のパソコンでは、動かせないため新型の導入となりました。二つ目の目的は、インターネットです。……

中部事業支部では、インターネットの講習会を定期的に開催しています。支部のホームページを開くことが、最初の目標です。私は、インターネットを始めたばかりですが、実際に通信をして思うことは、情報収集など、仕事にもプライベートにも非常に役立つということです。

また、電子メールによるコミュニケーションは、JIDの会員間は、勿論のこと他団体や組織とも簡単に、情報のやり取りが可能になります。これは、既存の組織や団体の有り方を、根本から変えてしまうということです。通信費や会議に関わる諸経費だけ例にとっても、かなりの節約になります。

最近では、安価なパソコンと簡単なソフトでインターネットが可能です。JIDにおいてもインターネット時代における存在意義を、今から考えておかねばならないパソコンに向かう毎日、私のオフィスからマーカードラフターが消えるのも時間の問題となってきました。



セミナー後、「交流会」にて会員と一般参加者との和やかな語らい

## 支部の動き

関西事業支部支部長 小宮 容一

10月4日に第3回支部運営会議を開催した。八十常充国際委員長より、「関東、中部を含め18名で中国旅行を無事終えた。」の報告あり。

また、9月10月の協賛事業として、広島在住の金堀一郎会員企画の「国際化とデザイン」シンポジウム、四国在住の大野明彦会員企画の「四国の家シンポジウム」は、共に、より成果を上げた。

今後の予定は、展覧会委員会がX'masに「百人百灯展」の開催、教育研究委員会が来年1月に、震災関連シンポジウムの開催などが具体化した。

## 故宮・頤和園を訪ねて

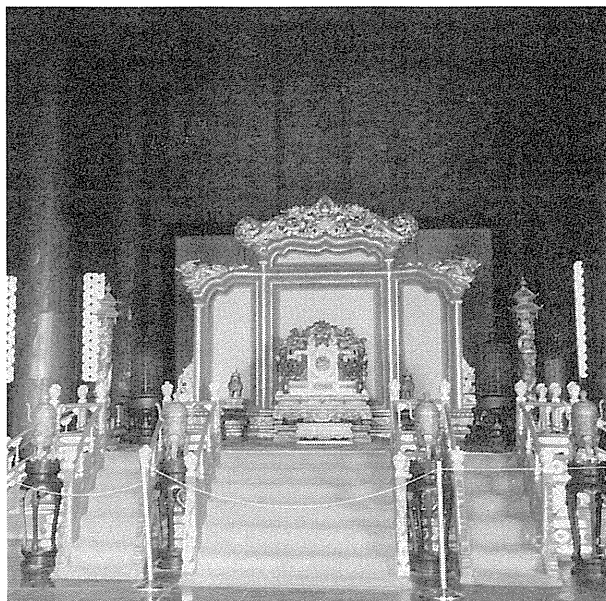
監事 金子 誠之助

「日中友好交流講演会」を中心に、中国の建造物とインテリア見学の旅に参加し、有意義な10日間を過ごすことが出来たことを、まず、樋口団長や同伴の諸氏に心からお礼を申しあげたい。その旅行の中の1部であるが、北京の故宮と頤和園について少し述べてみると、両所共余りにも有名で本などで紹介されているが、「百聞は一見にしかず」の言葉通りその場に立ち、その雄大さと華麗で細工のすばらしさに感服させられた。中国最大の木造建築である太和殿、保和殿の玉座、扉の金具細工、故宮最大の石彫「檐陛石」など、どれをとっても素晴らしく、建造物では日本とのスケールの違いを見せつけられたようである。故宮の北側にある景山に登り、頂上の万春亭より故宮全体を見ると、見渡す限りの黄金の薨の波が広がりその雄大さに再び感服させられた。

頤和園是北京最大の公園で、人工の山、万寿山があり、南に昆明湖、西湖、南湖が広がり後方には後湖があり、

公園の4分の3が湖で占められていて風光明媚な土地である。800年以上も前から歴代の皇帝の行宮となっていて、あの有名な清朝末期の西太后も大変気に入って舟遊びなどをしていたそうである。昆明湖に沿って長廊が約1kmあり、その間に豪壮華麗な建物が点在し、風情のある公園であった。舟遊びも盛んであったようで、石で作られた石舫や舟庫などがある。万寿山の中腹にある仏香閣までは登れなかったが、遠望では多角形で回廊をもつ華麗な建物のようにであった。この公園は観光客も多く、北京の憩いの場所となっているようである。

そのほか西安、上海、蘇州を訪問し、あらためて中国の大きさと歴史の重さを感じ、新しい中国建設の息吹きを感じた旅であった。



北京 故宮 保和殿の玉座

## 中国を訪ねて見たこと 知ったこと

前田 捷美

わずか2時間余りで上海或いは、もう1時間足せば北京へと。日本の国内旅行と余り変わらず、時差も感じずに、どこで会っても韓国などと同じ顔。日本の国は、中国では少数民族の一国と呼ばれているようです。

出発時、関空で出逢った中国の人も、母国に帰ると日本での顔が、母国人に戻っていたようにも思えた印象が忘れられません。

旅行先での一番の楽しみは、今回も土産品を探すこと

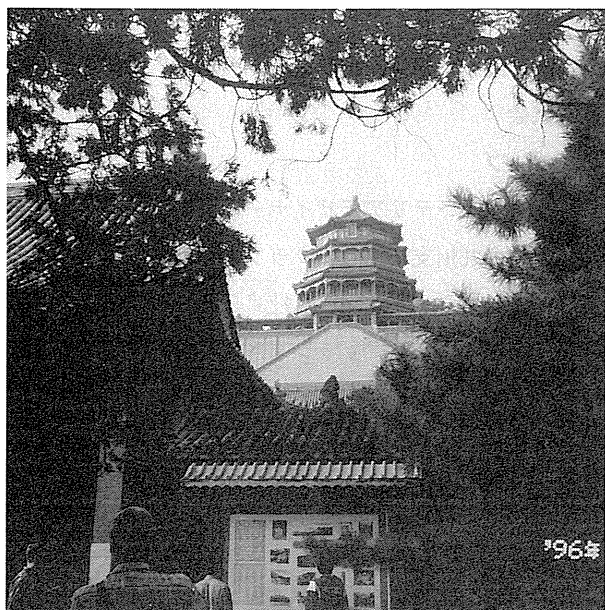
です。漢方薬品では片仔廣 墨と筆。(変り種は狼の尾とか)それに端溪の硯、宝石や珠数には翡翠や虎目石。私は菩提樹の実の化石の珠数を西安で手に入れましたが、また仙頭のハンカチ、インテリア用品ではこと欠きません。数物、陶磁器、青銅置物、象眼を施した箱物、屏風、象牙、木彫、石。

掛軸には書あり風景画(俳画や南画風のものが多い)花鳥や虎、竜などの題材で紙製、絹布製があったりします。私は主として碑石拓での掛軸で、書(寒山寺)達摩、三蔵法師、孔子像、寒山拾得を求めました。これらの掛軸は必ず、食事の場所を囲むように壁に掛けられて、鑑賞させて販売します。はじめは食事の世話をする人のように近づいて来て、好味や趣向を聞いて、値段は大抵は初値の3分の1位に落着きます。

中国の人には、まだ日本人の考え方や、生活習慣が理解されていません。間違った商売感覚でもって、現在の日本の住宅事情を知らずに勧めてきます。骨董品を除いては、置物、食器、彫刻品、絵画、刺繍、また象眼の絵模様、柄、色彩なども新しいデザインを見つけて、商品化するようだと思います。

今回のインテリアデザイン3団体の旅行も、交流の一端の役目を担う努めもあったことでしょう。

丁度、この原稿を書いているとき、NHKで悠久の長江・三峡を撮していましたが、多くの偉大な文化遺産を大切にすることや、雄大な自然の大地を保持することにも、現代の14億の中国人民の生活水準を高めることとの選択に、苦しむ姿が読みとれます。



頤和園

## デンマークの福祉デザイン — 高齢者住宅とプロダクトデザインの現状 —

国際委員会委員長 八十 常充

ほぼ九州と同じ面積で、人口は約500万人の国デンマークの福祉は、高齢者の医療費や住宅は国が負担し、大学の教育費や生活費も支給される。また子供の居る家庭にも補助が有るなど、こんな良いことづくめの国にもこれを支える所得者層には、所得税が50%の重い税金があり、消費税はなんと25%、外国車などの贅沢品には180%の取得税が掛るとか。

今回のセミナーは、デンマーク王立美術大学デザイン研究所準教授 Marno Gudiksen 氏を講師に《デンマークの福祉デザイン》をお話いただきました。

高齢者住宅では、氏が関ったアーバンエリアのプロジェクトの中で、高齢者も望むファミリーと同居もできる住宅や、既存住宅のリニューアルも重要な課題の一つであること。

生活用具では、ナイフ、フォーク、立ち上がり椅子など、障害者に重要な器具の開発や、コンペで入賞した車椅子の紹介がありました。

地道なデンマークの状況を知る有意義な機会でした。

## デザインビジネスの拠点 「大阪デザイン振興プラザ」オープン

(助)大阪デザインセンター 吉田 武司

10月1日、ATC(アジア太平洋トレードセンター)に誕生した「大阪デザイン振興プラザ」は、大阪の新進・起業デザイナーの活躍の場として大いに期待され、特に、デザイナーにとって基盤を大阪にすえて、世界に向けて情報発信できる展開が望める環境整備が来ています。これからは、東京の時代が終わりを告げ、待ちに待った大阪の時代が来たように思えます。

このプラザは、デザイナーの活動の拠点となる「デザイン工房」を中心として、未来を担うデザインビジネスの新たなステージとして注目されています。

「百人百灯」展 会期：12月20日(金)～25日(水)

場所：ATC デザインギャラリー

## FUKUOKA デザインリーグ'96について 〔都市と市民とデザインと〕

九州事業支部 展覧会委員長 川崎 泰秀

この秋も深まりゆく 11 月中旬に、福岡市経済振興局が中心となり、各種デザイン職能団体が参画する初のデザインイベントが、アクロス福岡をメイン会場とし、天神周辺の各施設をも使用し開催されます。

昨年3月29日、第1回デザイン懇話会以来、計5回の同会議が開催され、各団体の活動状況・デザイン振興のための活動と組織作り・デザインセンター構想について・各団体の事業及び例年の主催事業について・デザインイベントの共同開催の方策などの協議がなされた。

今年に入り3月14日〔仮称〕福岡デザインフェスティバル実行委員会準備会を経て、5月22日第1回実行委員会から本格的な検討、協議に進み表記のテーマなどを決定。自主事業と共同事業の二つの柱を設定し、更に共同事業をAグループ（グラフィック系）・Bグループ（インテリア建築系）に大別、JIDはおのずとBに加わりテーマを「福岡はデザインセンター」とした。

デザインリーグ発足の原点は、福岡にデザインセンターを造るためにどうしたらよいかという呼び掛けに端を発す。今回はまず各々のデザイン団体の活動を知り、理念の共有を計る手始めとして今回の共同事業が企画されたことを考慮し、Bグループはこの原点に戻り、近未来に必要とされるデザインセンターのあり得るひとつの姿を、模索しようではないかがテーマの根拠である。

経済社会のソフト化、サービス化がより一層進展するなかで、産業振興はもとより、より快適で人や環境に優しい街づくりや、物質的な豊かさを越えた生活価値の創造、さらに都市のアイデンティティを確立し、都市文化を活性化させる上で、デザインの持つ役割は非常に大きくなりつつある。このような背景の中「リーグ」は福岡市が中核となり、デザインに関するあらゆる職能組織が参加するまさにデザイン横断的なイベントである。今

後このFUKUOKA デザインリーグが回を重ねることにより、4年余に渡る新世紀のひとと人の世に、あるいは生活と地域と都市・文化に一指針でも指し示すことができれば、との願いにも近い思いも込められている。

JID九州事業支部としましても、この「リーグ」に当初より積極的に参加・活動・推進し、自主事業として「九州インテリアデザイン展」を開催します。

デザインムーブメントの主要な一翼を担うインテリアも、その重要性がより認知されてくると確信し、デザインを中心に据えた新ネットワーク、デザインに係るあらゆる情報の発進力の強化。デザイン業界の認知度の向上。デザインを基軸とする発想での産業振興、地域政策、都市政策によるアメニティ社会の創造。社会資産としてもストック価値の高いものや環境。デザインマインドの向上と共に、以上のような創造的活動が可能となり、生活と文化の向上に寄与することを究極の目的とし、「リーグ」が高評価を受け、次年度へ良い資産が残せるように協力と努力を惜しんではいけないと考えている。

因みにFUKUOKA デザインリーグのキーワードは、デザイン コラボレーション

「あんたも かたらんね」

### 参加デザイン団体

#### Aグループ

福岡CGデザイン協会／九州グラフィックデザイン協会／（社）日本広告写真家協会九州支部／（社）日本サインデザイン協会九州地区／福岡アートディレクターズクラブ／福岡婦人子供服工業組合／九州広告業協会／福岡広告協会

#### Bグループ

（社）日本インテリアデザイナー協会／（社）インテリア産業協会九州支部／九州クラフトデザイン協会／九州国際デザインコミッティ／（社）日本建築家協会九州支部／西日本インテリアプランナー協会／（社）日本商環境設計家協会九州支部／（社）日本ディスプレイデザイン協会／福岡インテリアコーディネーター協会

会期 11月13日－24日

Aグループ 13日－18日

Bグループ 19日－24日 JID展同時開催



## 「黒川雅之プロダクツ展」に寄せて

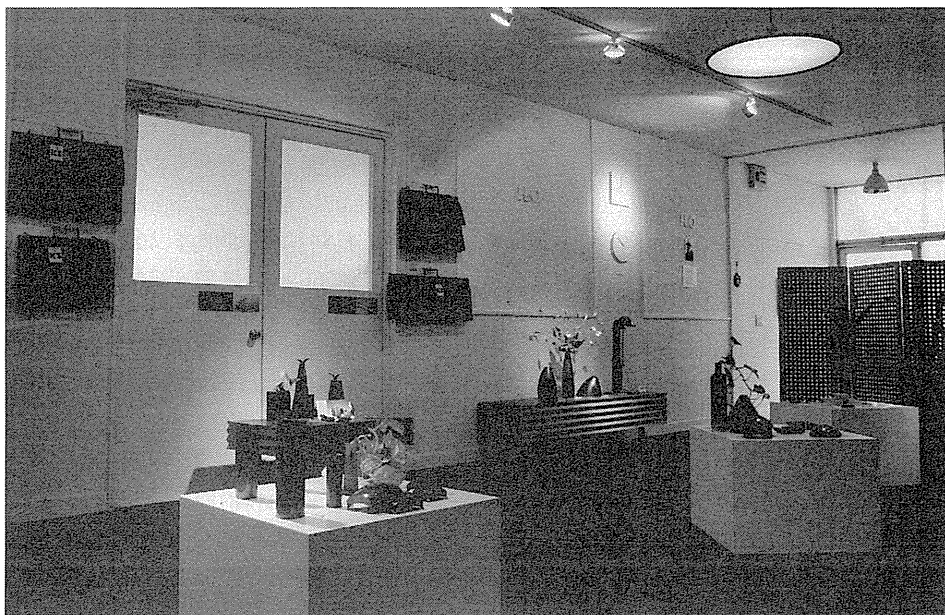
関 光 信 也

佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津359、これは”H2O”の所在地です。そして、前には、九州最大の河川、筑後川が流れています。ところで、毎年、10月の”H2O”はデザインマンスです。とはいっても、昨年から始めた企画です。一昨年の7月頃、久し振りに喜多俊之さんの事務所を訪れたとき、大阪のサードスタジオでの生活グッズ展の話を聞いて「九州版生活グッズ展」をやることになったわけですが、10月1日が「デザインの日」と言うことで、その日をスタートに1カ月間開催することに決まりました。そんなことから”H2O”の10月はデザインマンスになりました。2回目の今年は黒川雅之さんの「プロダクツ展」を10月6日から27日まで開催しました。

GOMシリーズを中心にヤマギワの照明まで50種類ほど並べての展示会でしたが、今年も昨年同様、本当に多くの方々にご来場いただきお買い上げいただくことができました。

そもそも佐賀というのどかな愛すべき田舎とデザインの掛け橋を目的に始めたイベントでしたが、その意味では目的は達成できたように思います。デザインの啓蒙は展覧会形式のイベントではなかなか浸透しないと思っています。明日、新しいデザインを目指すなら、その前のデザインが市民権を得ておく必要があります。そのためには、できるだけ多くの人達に「買う」という行為を通じて、自分

の身近に感動と共にデザインを取り込んで頂くことが必要だと思います。人間の記憶力なんて、思っているほどたいしたものではないようです。私もいつの間にか五十路に達し、最近、特にそれを感じるようになりました。いろいろな人がいるし、分かってくれる人ばかりではありませんから・・・つまり、進化にはおおむね学習が必要だと思います。それから、多少の向上心があれば・・・デザインを云々する前に、まず環境の整備のほうが先だと思うのですが。しかし、これはあくまで佐賀という田舎での話です。



「H2O 黒川雅之プロダクツ展」会場

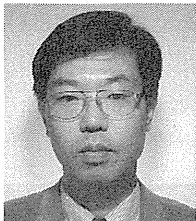
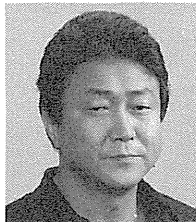


後列中央・黒川氏と九州事業支部会員

# 〔新入会員の紹介〕

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

## ●正会員

| 会員名及び番号                                                                                                                    |                                       | 住 所 及 び 電 話                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| り じ ゃ ひょく<br>李 在 赫<br>会員番号 1128<br>       | <勤務先・事務所><br><br><自 宅><br><br><推 薦 者> | 三星生命 Service(株) Interior 事業部<br>韓国 Seoul 市永登浦区汝矣島洞36-1、三星生命ビル11F<br>TEL 821-3770-4820 FAX 821-3770-4899<br><br>韓国 Seoul 市麻浦区台井洞392-5<br>TEL・FAX 821-336-2394<br>李 泰久・浅野 盛治  |
| わた べ しき ぶ<br>渡 部 式 部<br>会員番号 1129<br>    | <勤務先・事務所><br><br><自 宅><br><br><推 薦 者> | ミューデザイン研究所 (Mu DESIGN LABORATORY)<br>愛知県刈谷市神明町4-408 〒448<br>TEL 0566-21-2727 FAX 0566-23-8592<br><br>愛知県刈谷市神明町4-408 〒448<br>TEL 0566-21-2727 FAX 0566-23-8592<br>宇賀 敏夫・安藤 清 |
| とう らい ひろ みつ<br>唐 来 弘 光<br>会員番号 1130<br> | <勤務先・事務所><br><br><自 宅><br><br><推 薦 者> | ヤマハリビングテック(株) 東京支店<br>東京都新宿区西新宿6-3-1 新宿アイランドウイング7F 〒160<br>TEL 03-5323-6164 FAX 03-5323-4885<br><br>東京都多摩市桜ヶ丘1-59-2 〒206<br>TEL 0423-74-1263<br>小田原 健・森谷 延周                 |
| さ とう かつ み<br>佐 藤 勝 己<br>会員番号 1131<br>   | <勤務先・事務所><br><br><自 宅><br><br><推 薦 者> | (株)剣持デザイン研究所<br>東京都新宿区下落合2-19-19 〒161<br>TEL 03-3952-0195 FAX 03-3952-0197<br><br>東京都豊島区駒込6-19-2 〒170<br>TEL 03-3949-5307<br>松本 哲夫・関口 正巳                                    |

### 「意匠制度の見直しにご意見を」

現在、特許庁では、「意匠法」の改正をはじめ、意匠制度の見直しを検討中です。

最終的には、工業所有権審議会の審議を経て意匠出願・登録など、「意匠法」の改正案としてまとめ、早ければ'98年の通常国会に提出されます。

そのために特許庁では、11月5日よりホームページ「デザインの耳」のコーナーを開設、e-mailまたは

FAXにて、デザイナーなど、各界よりひろく、現在の意匠制度の問題点についての意見の提出を求めています。

●意見提出先／特許庁審査第1部意匠課調査班まで  
e-mail: pa1503@jpo-miti.go.jp  
FAX : 03-3595-2766

●お問い合わせ／JID・デザイン保護委員会・井上 昇委員長まで (本部事務局)

# [ 会 員 の 異 動 ]

- ご面倒でも1995～1996年版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正下さい。
- 正会員及び賛助会員ほか

| 会 員 名                  | 異 動 事 項           | 新                                                                                                                                                   |
|------------------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大 泉 博一郎<br>(名誉 P 32)   | 移転                | 東京都品川区大井7-13-3 〒140 大泉 武雄様方                                                                                                                         |
| 石 川 尚<br>(関東 P 50)     | 事務所移転             | (株)エル・シー・エム<br>東京都渋谷区神宮前6-29-3 原宿 KY ビル 6F 〒150<br>本部・事務局 TEL 03-5469-9181<br>制 作 部 TEL 03-5469-9182 FAX 03-5469-9185                               |
| 入 江 満<br>(関東 P 55)     | 事務所移転             | 東京都新宿区西新宿4-32-6 パークグレース新宿 1305 〒160<br>TEL・FAX 変更なし                                                                                                 |
| 大 島 真 吾<br>(関東 P 61)   | 自宅移転              | 東京都中野区白鷺3-5-16-224 〒165<br>TEL 03-3310-3675                                                                                                         |
| 岡 本 博 幸<br>(関東 P 31)   | 事務所移転<br><br>自宅移転 | (株)ファーストデザイン・ネットワーク<br>東京都渋谷区恵比寿1-23-9 1F 〒150<br>TEL 03-5423-5150 FAX 03-5423-5160<br>東京都大田区矢口2-21-9-302 〒146<br>TEL 03-3756-5666 FAX 03-3756-5661 |
| 小 林 康 子<br>(関東 P 79)   | 自宅・事務所移転          | 東京都練馬区東大泉1-2-17-413 フォレストエージ石神井公園 〒178<br>TEL・FAX 03-3867-3556                                                                                      |
| 合 田 正 甫<br>(関東 P 80)   | 自宅移転              | 神奈川県藤沢市大鋸1-19-13 〒251<br>TEL 0466-26-5312                                                                                                           |
| 杉 本 弥和子<br>(関東 P 89)   | 事務所 FAX           | (TEL・FAX) 048-225-8505                                                                                                                              |
| 鈴 木 恵 三<br>(関東 P 90)   | 事務所移転             | BC 工房(株)<br>東京都渋谷区神宮前3-1-25 〒150<br>TEL 03-3746-0822 FAX 03-3746-0827                                                                               |
| 鈴 木 豊<br>(関東 P 91)     | 自宅移転              | 神奈川県川崎市多摩区栗谷1-4-13 〒214                                                                                                                             |
| 関 口 英 子<br>(関東 P 93)   | 勤務先               | (株)西部百貨店退職                                                                                                                                          |
| 二 部 誠 治<br>(会員番号 1106) | 事務所移転             | 東京都新宿区下落合3-16-11 グランドメゾン目白 702号 〒161<br>TEL 03-3954-6490 FAX 03-3954-6496                                                                           |
| 光 藤 俊 夫<br>(関東 P 128)  | 事務所移転             | 光藤建築研究室<br>東京都渋谷区神宮前2-11-13 〒150<br>TEL 03-3402-4315 FAX 03-3403-6757                                                                               |

| 会 員 名                                    | 異 動 事 項            | 新                                                                                    |
|------------------------------------------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 足 立 和 夫<br>(関西 P162)                     | 自宅移転               | 奈良県奈良市西大寺宝ヶ丘6-3 〒631<br>TEL・FAX 0742-51-1336                                         |
| 尾 畑 祐 司<br>(関西 P162)                     | 自宅・事務所移転           | 大阪府箕面市半町2-12-43 〒562<br>TEL 0727-24-6840                                             |
| 近 沢 晴 雄<br>(関西 P175)                     | 勤務先                | (株)スミノエインテリアプラザ 代表取締役<br>大阪府大阪市中央区南船場3-11-20 〒542<br>TEL 06-251-0804 FAX 06-251-9959 |
| 疋 田 友 一<br>(関西 P180)                     | 転勤                 | (株)高島屋工作所 大阪事業所 工務部設計課<br>大阪府大阪市浪速区敷津東1-1-25 〒556<br>TEL 06-644-1677 FAX 06-644-1237 |
| 稲 田 慎 一<br>(九州 P192)                     | 自宅移転<br>支部移転       | 東京都武蔵野市西久保3-4-18 サクラハイツ101 〒180<br>TEL 0422-51-5785<br>九州事業支部 → 関東事業支部               |
| 佐 藤 栄 次<br>(九州 P195)                     | 事務所住居表示<br>" 新 FAX | 熊本県熊本市出仲間2-8-12 〒862<br>FAX 096-379-5570 (専用)                                        |
| 田 代 利志幸<br>(九州 P197)                     | 事務所移転              | 福岡県直方市新入中曽根633-3<br>※自宅の住所上記に訂正をお願い致します。                                             |
| コマニー(株)<br>(賛助 P209)                     | 移転                 | 東京都中央区日本橋蛸殻町1-39-5 水天宮北辰ビル5F 〒103<br>TEL 03-5641-5651 FAX 03-5641-5667               |
| (株)東京書藝館<br>(賛助 P216)                    | 移転                 | 東京都渋谷区代々木1-27-13 〒151<br>TEL 03-3370-7866 FAX 03-3370-8289                           |
| フランスベット(株)<br>(賛助 P222)                  | 担当者                | 生産本部 商品開発部 設計課長<br>薄井 文雄                                                             |
| 通商産業省<br>産業政策局<br>デザイン政策室<br>(関連団体 P261) | 電話                 | TEL 03-3501-1511 (代) 内線 2985・6<br>03-3501-1863 (直)<br>FAX 03-3501-6201               |

## 1996/10～11

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (1996年通巻 194号)

1996年 11月 29日発行

発行所/社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人/泉 修二

〒160 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集/JID本部事務局 印刷所/有限会社 コーエイ企画